

桑名市共通カリキュラム

平成 22 年 1 月

カリキュラム作成に係る調査推進委員会

目次

はじめに	・・・p3
I 「桑名市における就学前教育の今後のあり方について」(最終答申)	
1. 桑名市のめざす就学前教育	・・・p4
2. 桑名市における就学前教育のキャッチフレーズ	
3. 桑名市における就学前教育のイメージ	
4. 桑名市共通カリキュラム作成の基本理念	・・・p5
(1) 共通カリキュラムの位置付け	
(2) 共通カリキュラムの内容	
II 桑名市共通カリキュラムの作成	
1. 桑名市の子どもと子育て家庭の状況	・・・p6
2. 桑名市のめざす子ども像	
3. 共通カリキュラムの構造	・・・p7～11
(1) カリキュラムの種類	
(2) カリキュラムの視点	
(3) 発達上の時期の区分	
(4) 「ねらい」及び「援助のポイント」	
(5) 保護者との連携	
(6) 小学校への接続	
(7) 地域における子育て支援の拠点としての役割	
(8) カリキュラムの活用および留意点	
4. 骨子	・・・p12
資料1 : 子ども・子育て家庭の状況と課題	p13
資料2 : こんな子どもに育てたい	p14
資料3 : カリキュラム作成に向けてのコンセプト	p15
資料4 : 研修経過	p16
資料5 : 委員名簿	p17
別紙1 : 視点別カリキュラム	
別紙2 : 年齢別カリキュラム	

はじめに

乳幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる時期であり、このような時期に行われる保育・教育は、子どもの心身の健やかな成長を促す上できわめて重要な意義を有するものです。

平成19年4月に、「桑名市における就学前教育の今後のあり方について」最終答申が出され、市の就学前教育の理念が構築されました。

現在、保育・教育カリキュラムについては、公私立や幼保のそれぞれが独自に作成し保育を進めていますが、答申には「理念実現のためには、それぞれの機関がこれまで積み上げてきた保育の基本的な考え方や保育の姿勢を互いに理解し合い、公私立や幼保の垣根を越えて、共通のカリキュラムを作成し、実践していくことが必要である。」とあります。これを受けて、カリキュラム作成に係る調査推進委員会を立ち上げ、桑名市共通カリキュラムの作成に取り組むことにしました。

本調査推進委員会は、学識経験者をはじめとして、公私立保育士、公立幼稚園教諭、保健師や学童期への連続性を重視するため小学校教諭もメンバーに加え、平成19年8月より平成22年1月まで熱心に討議いただきました。

カリキュラムの内容は、乳児期から就学前までの一貫したものであり、今後の保育・教育の基本となるものです。このカリキュラムに、園の実態・地域の特性を加味し実践する中で、有効なものとしていくことがこれからの課題であると思います。

各園・所におかれましては、このカリキュラムを十分に活用していただき、豊かな実践が展開されることを願っております。

3年間に渡り、ご尽力をいただきました愛知教育大学 新井美保子教授をはじめ、委員の皆様には心より感謝申し上げます。

平成22年1月

桑名市保健福祉部
桑名市教育委員会

子ども家庭課
指導課

I 「桑名市における就学前教育の今後のあり方について」（最終答申）

1. 桑名市のめざす就学前教育

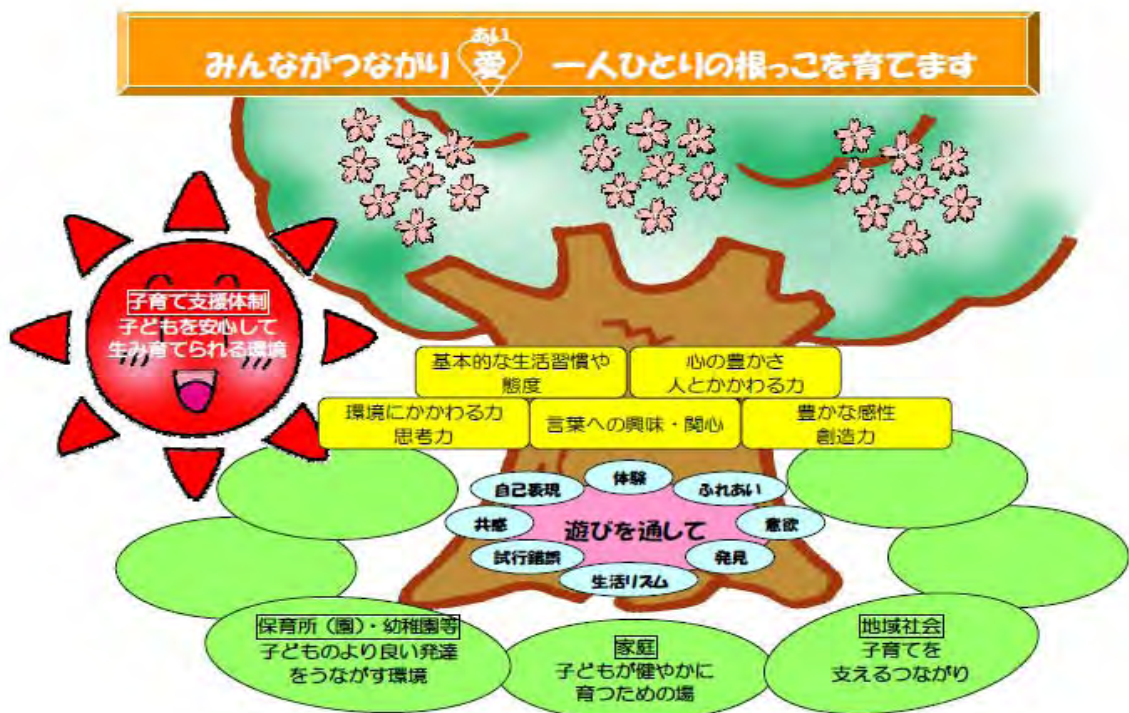
子どもの健やかな育ちを中心におき、幼稚園・保育所（園）の特性を生かしつつ、次の点を大切にした就学前教育を行います。

- ・子どもの笑顔と元気があふれる園づくりをします。
- ・遊びを通して学ぶことを大切に、人としての土台を作ります。
- ・保護者と協働して子どもを育てます。
- ・一人ひとりに寄り添い、確かな育ちを支えます。

2. 桑名市における就学前教育のキャッチフレーズ

みんながつながり愛 一人ひとりの根っこを育てます。

3. 桑名市における就学前教育のイメージ



人間形成上の根っこの部分にあたる乳幼児期に、

- 「健康・体力」の基礎となる基本的な生活習慣を、
- 「豊かな人間性」の基礎となる人とかかわる力や豊かな感性を、
- 「確かな学力」の基礎となる思考力や言葉への興味・関心を培っていきたい。

これらの力は遊びを通して様々な体験をし、試行錯誤をくりかえしたり、友達と関わったりすることから、育まれていくと考える。

市のめざす就学前教育の実現のため、カリキュラム作成に係る調査推進委員会を立ち上げ、「桑名市共通カリキュラム」の作成に取り組むこととした。

4. 桑名市共通カリキュラムの基本理念

(1) 共通カリキュラムの位置付け

本市の子どもたちの確かな育ちを保障するために、公私立共通の保育の基本的な部分を示すものである。

桑名市共通カリキュラムを基に、園や地域などの実態を考慮した特色あるカリキュラムを作成し保育・教育を進めていくものとする。

(2) 共通カリキュラムの内容

- (ア) 0歳児から5歳児までの発達をふまえ、連続した一貫性のある内容とする。
- (イ) “あそびを通じた学び”を基本に、子どもの自発的な活動が大切にされる内容とする。
- (ウ) 子ども自身が主体性を十分に発揮することのできるかわりや環境構成など、保育者の基本的な役割について、計画的に構成された内容とする。
- (エ) 乳幼児期から児童期への円滑な移行を図るために、小学校との接続を視野に入れた内容とする。
- (オ) 地域における子育て支援の拠点としての役割を含む内容とする。

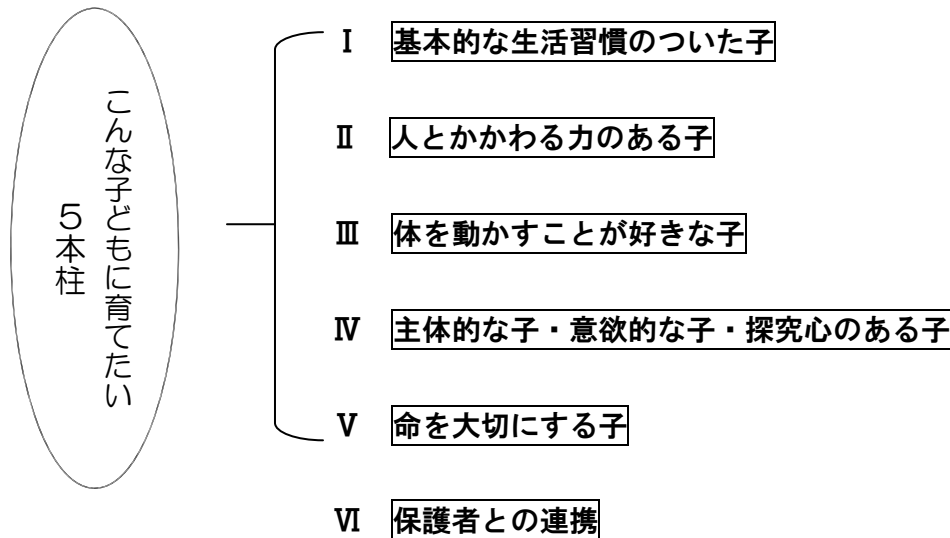
Ⅱ 桑名市共通カリキュラムの作成

1. 桑名市の子どもと子育て家庭の状況

・・・資料1・2

桑名市の子どもと子育て家庭の課題を出し合い、その上でどんな子どもに育てたいのかをKJ法の手法を用いて分析を行った。

結果、以下の5点を『こんな子どもに育てたい5本柱』として明らかにした。また、6点目として保護者との連携の重要性も確認しあった。



2. 桑名市のめざす子ども像

・・・資料3

友だちと楽しんで遊ぶ子
～わたし大好き・友だち大好き・遊び大好き～

『こんな子どもに育てたい5本柱』をもとに、めざす子どもの姿を考えた。「友だちとともに遊ぶ子」「楽しんで遊ぶ子」「主体的に遊ぶ子」という意見が多く出され、それらをまとめ、《友だちと楽しんで遊ぶ子》とした。

副題には、「自分を好きになってほしい」「友だちを好きになってほしい」「遊ぶことが好きになってほしい」という願いがこめられている。

3. 共通カリキュラムの構造

子どもの発達の道筋には順序性・方向性があり、保育所（園）・幼稚園での保育の計画は発達の理解に基づき、柔軟で発展的であり一貫性のあるものでなければならない。

子どもの発達を的確にとらえることの重要性を委員全員で共通理解し、子どもの発達の姿を軸に作成に取り組んだ。

(1) カリキュラムの種類

① 「骨子」

… p 12

「発達上の時期」「発達のおもな特徴」「保育の中で引き出したい姿（子どもに表れてくる具体的な姿）」と「保育のポイント」の4点において、各年齢での特徴的な内容について記載してある。

② 「視点別カリキュラム」

…別紙1

視点ごとに、0歳の頃から5歳児までの発達上の時期に沿って「ねらい」と「援助のポイント」が記載してある。0歳の頃～3歳の頃については“一人一人が大切に育てられるための援助”を中心に、3歳児～5歳児については、“友だちとともに主体的に活動するための援助”を中心に作成した。

見通しを持って保育をするためのカリキュラムである。

③ 「年齢別カリキュラム」

…別紙2

各視点に沿って「ねらい」と「援助のポイント」が記載してある。

「年齢」ごとに大切にすべき内容をまとめたカリキュラムである。

(2) カリキュラムの視点

○ 子どもたちの毎日の生活や遊びの中で、保育者が何を育て、どんな援助をしていくのかを明らかにしていくためには、保育の視点が必要である。

○ 子どもたちの課題から導き出した『こんな子どもに育てたい5本柱』を基に、作成の視点を以下の4点に設定した。

- ① 人が人として生きていくための土台づくりとしての「**基本的な生活習慣**」
- ② 人に対する信頼感や思いやりの気持ちを育む「**人とのかかわる力**」
- ③ しなやかでたくましい体づくりをめざす「**体を動かすこと**」
- ④ 豊かな感性・知性につながる「**探究心**」

○ 『こんな子どもに育てたい5本柱』V「命を大切にする」視点については、4つ視点の中に含めていくこととした。

《各視点の内容》

①基本的な生活習慣を身につける視点

養護に関わるねらい及び内容「ア 生命の保持」
五領域 「健康」

子どもが安定した生活を送るために必要な食事・排泄・睡眠・着脱・清潔の基礎的事項を身につける視点である。一人一人の子どもの命や健康・安全を守り、生理的欲求を満ちし、生活の安定を図る視点である。

また、自分の健康を守り、健全で安全な食生活をおくる力を育てる食育の工夫などである。

②人とのかかわる力を育む視点

養護に関わるねらい及び内容「イ 情緒の安定」
五領域 「人間関係」「言葉」「表現」

保育者との信頼関係を基盤に、子どもが互いにかかわりを深め、協同して遊ぶことの楽しさや、自己を抑制しようとする気持ちを育む視点である。

様々な人とのかかわりの中で人を信頼する気持ち、コミュニケーションをとることの楽しさや規範意識の芽生えを育み、友だち同士心を通わせて遊びを楽しむ力、身近な人々に親しみを持ちかかわる力の育成である。

また、多様な感情体験が得られるための工夫である。

③体を動かすことを楽しむ視点

五領域 「健康」「表現」

体をしなやかにし、体を動かすことの楽しさ、喜びを育むための視点である。

また、安全についての構えを身につけることのできる力である。

体の発達を促すかかわり、命を守れる子どもの育成である。

④探究心を育む視点

五領域 「環境」「言葉」「表現」

興味や関心をもって友だちと遊び、好奇心、思考力をはたかせ、自ら学ぼうとする意欲を育む視点である。子どもが、あらゆる事象に好奇心を湧かせ、試行錯誤しながら遊びを創りだし進めることができるための人、物、時間、空間等の工夫である。

また、驚き・発見・喜びなど感動のある生活の創造や、豊かな直接体験の場の工夫などである。

(3) 発達上の時期の区分

- 0歳から就学前までを以下のように10期に区分した。

0歳の頃			1歳の頃		2歳の頃	3歳の頃	3歳児	4歳児	5歳児
4か月の頃	6か月の頃	10か月の頃	前半	後半					

- 個人差が大きく、個別のカリキュラムを作成して保育を進めている0歳の頃～3歳の頃までは(園によっては0歳の頃～1歳の頃の場合もある)「～の頃」と表記をした。これは、月齢にこだわらず、一人一人の発達に合わせて柔軟に活用していただくことを示している。
また、成長が著しく大きな発達の節目のある0歳の頃、1歳の頃はさらに細かく期を分けて記載した。
- クラスのカリキュラムを作成して保育を進めている3歳児～5歳児は、(園によっては2歳児～5歳児の場合もある)「～歳児」と表記をした。これは、友だちとの関係が芽生え、広がり、深まり、影響し合いながら成長していく子どもたちの発達を踏まえ、集団づくりに視点を置いて保育をしていくことを示している。
- 3歳が「3歳の頃」と「3歳児」とあるのは、一人一人の発達を重視しつつも友だちとの関係の中での育ちが芽生えてくる時期であり、個から集団へと移行をしていく子どもの心身の発達に合わせ、より丁寧に保育をしていくことに配慮したためである。
- 0歳の頃から5歳児までを通して、子どもの成長・発達は画一的なものではなく、行きつ戻りつしながら進んでいくものである。月齢・年齢の区分は、発達の道筋として捉え、あくまでもめやすになるものである

(4) 「ねらい」及び「援助のポイント」

- 「ねらい」は、4つの視点それぞれの力を育むために、各年齢・期ごとにめざす内容や子どもの姿であり、「援助のポイント」は「ねらい」を達成する上での、保育者の配慮事項を記したものである。
- 「ねらい」の養護に関する内容についてはおもに保育者の視点から、その他の内容についてはおもに子どもの視点から記載した。

(5) 保護者との連携

- 0歳の頃から5歳児までを通し、子どもが適切な生活リズムのもとで快適な生活を送るためには、家庭との連携を密にし、一人一人の状態を把握することが必要である。特に乳児期においては、子どもの状態が急変することもあり、重要な事項であることから、「援助のポイント」に記載してある。
また、保育所（園）においては特に、途中入所者も多いことから、入園当初は密接な連携を心がけることも大切である。
- 保護者が子どもの姿を間近で見ることで子どもに関する理解を深められるように保育参加、参観などの場を設定するなど、子どもの成長とともに喜べるような工夫も大切である。
また、子育て不安や孤立感を感じている保護者への支援としての相談窓口、保護者同士がつながりあえるような場となることも大切である。

(6) 小学校への接続

- 「小学校への接続を視野にいれた内容」については、保育所保育指針・幼稚園教育要領にあるように、小学校教育の先取りをすることではなく、保育の中で創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎が培われるよう、毎日の生活や遊びを充実させることであり、そのための援助をしていくことである。
本委員会でも、作成されたカリキュラムに沿って豊かな経験を積み重ね、具体的には就学前までに以下のようなねらいを達成していることが、小学校への円滑な移行につながると考えている。

【①基本的な生活習慣を身につける視点】

- ◎生活の仕方を身につけ自分の身の回りのことを進んでするとともに、見通しをもって自分たちで進めていこうとする

【②人とかかわる力を育む視点】

- ◎友だちと協同して遊びを創りだし、ともにやりとげる喜びを味わい自信をもって行動する

【③体を動かすことを楽しむ視点】

- ◎様々な運動に意欲的に挑戦しようとする

【④探究心を育む視点】

- ◎意欲や好奇心、探究心をもって、発見したり考えたりしていこうとする。

(5歳児のねらいを抜粋)

- 就学に向けて、小学校職員との職員同士の交流や幼児と児童との交流等、直接的な交流を各園の実情に合わせて行っていくことも有効である。

(7) 地域における子育て支援の拠点としての役割

- 「地域における子育て支援の拠点」については、保育所（園）・幼稚園には、その専門性を活かし地域や関係機関と連携しながら、未就園児とその保護者への子育て支援を担う役割が求められている。
園や地域の実情に合わせて園・園庭開放などを実施したり、保護者の相談を受けたりすることもその一つである。
その際、離乳食の進め方・子どもへのかかわり方等具体的な内容についての情報提供に役立てていただければと考える。

(8) カリキュラムの活用及び留意点

- 本カリキュラムは、保育所保育指針・幼稚園教育要領を基に作成し、桑名市版としてより具体的に示したものである。「骨子」は市の保育・教育課程、「視点別カリキュラム・年齢別カリキュラム」は市の指導計画ととらえて活用していただくことが望まれる。
- 各保育所（園）・幼稚園独自の保育・教育課程や指導計画作成の際、基本にしていただくものであり、ねらいに沿った、具体的な保育の内容については、園の特性や地域性を生かし、各園で独自に構成するものとする。
- 保育所（園）・幼稚園で活用しやすいものとするため、「ねらい」に迫る一例として「援助のポイント」に遊びの名称・玩具等が紹介してある。必ず取り入れなければならない内容ではなく、クラス・園の実態・地域性を考慮し、園独自の様々な遊びを工夫していくことが望まれる。

桑名市共通カリキュラム骨子

友だちと楽しんで遊ぶ子
～わたし大好き・友だち大好き・遊び大好き～

年齢	発達上の時期	発達のおもな特徴	保育の中で引き出したい姿	保育のポイント	
0歳の頃	愛着と人見知りの時期	4か月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○ 睡眠と覚醒がはっきりしてくる ○ あやされて微笑む ○ 不快な時に泣く ○ 首がすわる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ いつも世話をしてくれる保育者のもとで安心して過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 心身の未熟性を理解し、保護者との連携を特に密にする ☆ 子どもの発育、発達状態を把握し一人一人に応じる ☆ 「快」「不快」のサインを見逃さずに応える ☆ 人とのかかわりの基礎となるので微笑みかけたり、あやしんだりして特定の大人との関係をしっかりとつ
		6か月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分から身近なものにかかわろうとする ○ 喃語が盛んになる ○ 人見知りが始まる ○ 寝返りやお座りする 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ いつも世話をしてくれる特定の保育者との結びつきに心地良さを感ずる ◇ ミルク以外の味に親しむ 	
		10か月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発語が始まる ○ 身近な大人との交流を求め、喜ぶ ○ はいはいやつかまり立ちをする ○ 指先を器用に使い始める 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育者との信頼関係の中で、身近な人やものに好奇心をもつ ◇ 手差し、指さしによるコミュニケーションを楽しむ ◇ 移動運動を楽しむ 	
1歳の頃	発語と探索の時期	前半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周りのことを意識し、興味をもち始める ○ 喜怒哀楽等が芽生えてくる ○ 指差しや片言で思いを伝えようとする ○ 歩き始める 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 興味のあるところに自分から行って触れたり試したり、探索活動を盛んにする ◇ 自分の気持ちを安心して表す 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 歩き始めや発語など大きく発達する。個人差の大きい時期であることを理解し、一人一人の発達に合わせる ☆ 一日の生活が歩き回ることが中心なので、十分に探索できるように安全な環境設定を工夫する ☆ 一人一人の表情を読みとり、やさしく話しかけたり発語を促したりすることによって、楽しんで言葉を使えるようにする
		後半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意味のある言葉を使うようになる ○ 身近な大人が興味の対象となり始める ○ 歩行が安定し、手指を使った遊びが盛んになる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 身近な大人の言葉が分かり、意味のある言葉を3、4語くらい話す 	
2歳の頃	自我の芽生えと模倣の時期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの存在を意識し始める ○ 自己主張をする 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育者や友だちの模倣を楽しむ ◇ 「自分で」「イヤ」など自己主張をし、何でも自分でやろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 保育者や友だちの模倣を十分楽しむ中で同じという気持ちや同じ玩具で遊びたい気持ちが満足できるように環境を整える ☆ 子どもの心のコントロールに大きな影響を与えることに留意し、やりたいけどやれない、子どもの揺れ動く微妙な感情に丁寧に対応する 	
3歳の頃	自我の拡大の時期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大人の手を借りず自分でしようとする ○ 友だちと一緒にいることの心地よさを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 身の回りのことを自分なりにしようとする ◇ 言葉で伝えることを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自我がはっきりしてくるものうまく表現できないところもあるので、一人一人に応じて十分に受け止める ☆ 一対一でゆったりと話を聞くようにする。 	
3歳児	自己主張と、自立への意欲が見られる時期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣がおおよそ自立する ○ 気の合う友だちと一緒に遊ぶようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 身の回りのことが自分でできるようになる ◇ 自分の好きな遊びを見つけて楽しむ ◇ 遊びを通して周りの友だちに興味をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分のイメージで遊ぶ姿を十分に認めていく ☆ 友だちを意識して触れ合って遊ぶことを大切ににする ☆ 自分の思いを出すことを大事にし、お互いの気持ちを受け止めつなげていく 	
4歳児	自己表出し相手の思いを知る時期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自我がしっかりし、自他の区別がはっきりしてくる ○ 友だちの思いが分かり始める ○ 全身のバランス能力が発達し様々な動きができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 友だちとかかわりをもちながら自分の思いを出して遊ぶ ◇ 相手の思いに気付く ◇ 体をのびのびと動かして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 互いに思いを出し合いぶつかり合う中で、自分とは違った思いがあることに気付かせていく ☆ 葛藤する気持ちを受け止めて共感したりして、乗り越えていけるようになる ☆ 体の軽いこの時期に戸外で遊ぶことを通して、体を動かして遊ぶことを楽しめるようにする 	
5歳児	友だちの思いを受け止め、目的に向かって友だちと協力する時期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己主張したり、友だちの思いを受け止めたりする ○ みんなで活動することを楽しむ ○ 安全や健康について必要な習慣や態度が身につく 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分の気持ちをコントロールし、見通しをもって生活する ◇ 友だちとの活動の中で自分を発揮する ◇ 周りの様々なことに関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 試行錯誤して取り組める環境やかかわりを工夫し、達成感や充実感を味わえるようにする ☆ 自己発揮し自分の気持ちを調整する中で、友だちと協力し合う喜びを味わえるようにする ☆ 自分や友だちの良さに気付けるような温かい関係づくりに努める ☆ 様々な人との触れ合いの中で、親しみの気持ちや思いやりがもてるようにする 	

資料編

子ども・子育て家庭の課題

食生活

- 朝ご飯を食べてこない
- 好き嫌いが多くなっている
- 食べる時、座る時の姿勢がよくない

生活リズム

- 夜型の生活で睡眠不足が感じられる
- 朝からイライラしている姿がある
- 基本的な生活習慣が身につけていない

健康・体

- はいはいの時期が短く、足腰が弱い
- 体温調節が苦手である
- 転びやすく、転んだ時手が出にくい

自制心

- ねばり強く頑張る力が弱くなってきている
- 自分のしたいことが優先で、周りが見えていない
- 待つことが苦手である
- 自分で考える力が弱い
- 失敗をおそれる

コミュニケーション力

- 思っていることを言葉で伝えることが苦手である
- 一人遊びの子が増えている
- 子どもより、大人とかかわりたい気持ちが強い
- 甘えたいがうまく表現できない

体験

- 家庭・地域で実体験できる場が少なくなってきたおり、実体験からの知識は少ない

遊び

- 遊びのイメージが共有しにくく、ごっこ遊びがうまくできない
- 身近な環境へ自らかかわる力が弱くなっている
- 戸外での遊びより室内での遊びが多く、こぢんまりと遊ぶ傾向がある
- ごっこ遊びの内容も変化してきている

子育て家庭やとりまく状況の変化

- 核家族・共働き家庭の増加による長時間の保育が必要な子の増加
- ニーズが多様になってきている
- 子どもとどう接していいかわからない保護者の増加
- 父親の育児参加が増えている
- 様々な情報が提供され、自分で選択して取り入れることが難しい
- 携帯メールを通してつながっている
- 遊び場の不足
- 様々な国の子が園に在籍している

こんな子どもに育てたい

基本的な生活習慣のついた子

- ★朝からニコニコいきいきした子
- ★笑顔とやさしさのある子
- ★あいさつ等、自分から進んでできる子

- ☆食べることに意欲のある子
- ☆食教育の充実（野菜を育てる・食べる・料理等）
- ☆食べ物への感謝の心を育む

人とかかわる力のある子

- ★自己をコントロールする力のある子
- ★自分の思いをもち、友だちの気持ちに気付き、相手の思いに寄り添える子
- ★人とかかわりつなげる力のある子
- ★友だちとかかわって遊ぶことが楽しいと思える子
- ★思いやりのある子
- ★友だちと力を合わせられる子
- ★いろんなことを受け入れられる子

☆実体験の場の提供

命を大切にする子

- ★命の尊さを感じられる子
- ★命を大切にする心のある子

- ☆みんなのために働く子
- ☆感謝の気持ちをもてる子

主体的な子・意欲的な子・探究心のある子

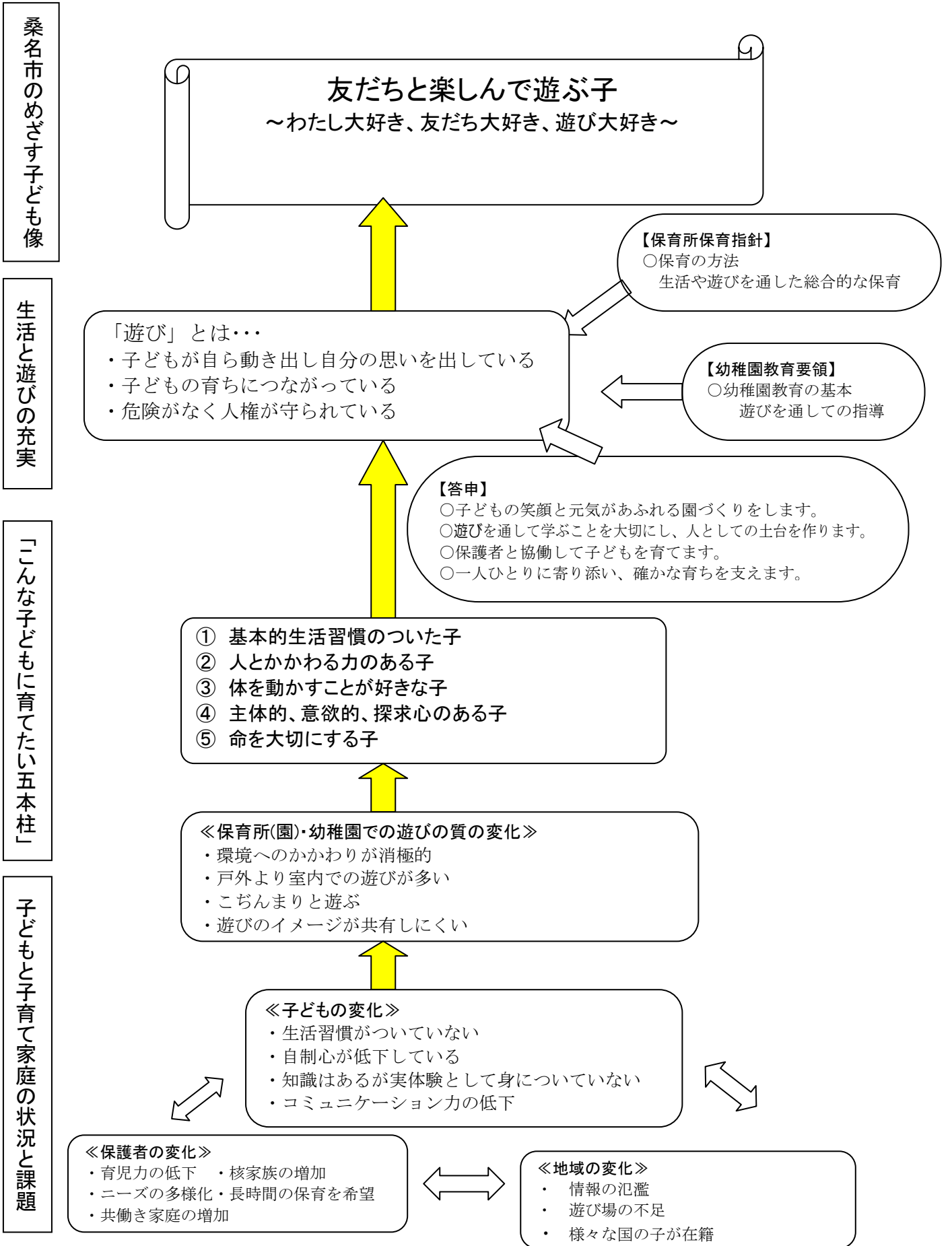
- ★自ら考えて行動できる子
- ★好奇心旺盛な子
- ★主体的に遊べる子
- ★困難に立ち向かう子
- ★何でもやってみようとする子
- ★感性の豊かな子
- ★意欲にあふれる子
- ★体験活動を通して、自ら学ぼうとする子
- ★遊びに熱中できる子
- ★遊びを創り出していく子

子育て環境の整備など

- ◇地域のつながりの強化
- ◇育児力向上についてのサポートの充実
- ◇育児負担軽減の為の利用しやすいシステムづくり
- ◇保護者啓発の推進
(子どもの実態・子どもにとってよいことを発信)
- ◇保護者と共に学び合い、つながり合える取り組み

体を動かすことが好きな子

- ★運動することが好きな子
- ★体を動かすことを喜び、健康や安全に気をつけることのできる子
- ★たくましくしなやかな体をもつ子
- ★自分で自分の体を守れる力のある子



研修経過

研修経過

【平成 19 年度】

- 作成部会 第1回 平成19年 8月 7日 (火)
- 第2回 平成19年 9月 7日 (金)
- 第3回 平成19年10月 1日 (月)
- 第4回 平成19年12月13日 (木)
- 第5回 平成20年 1月18日 (金)
- 研修視察 大垣市 池田市
- 報告会・講演会 平成20年 3月 5日 (水)
- 「桑名市のめざす子ども像」「カリキュラム骨子 (第1次案)」作成

【平成 20 年度】

- 作成部会 第1回 平成20年 6月20日 (金)
- 第2回 平成20年 8月 4日 (月)
- 第3回 平成20年10月29日 (水)
- 第4回 平成20年12月19日 (金)
- 第5回 平成21年 1月30日 (金)
- 第6回 平成21年 3月 2日 (月)
- 視点別カリキュラム作成ワーキング 10回開催
- 研修視察 瑞浪市 米原市
- 報告会・講演会 平成21年 3月12日 (木)
- 「カリキュラム骨子 (第2次案)」「視点別カリキュラム (案)」作成

【平成 21 年度】

- 作成部会 第1回 平成21年 5月13日 (水)
- 第2回 平成21年 6月30日 (火)
- 第3回 平成21年 9月 1日 (火)
- 第4回 平成21年10月26日 (月)
- 第5回 平成21年11月30日 (月)
- 第6回 平成21年12月21日 (月)
- 第7回 平成22年 1月15日 (金)
- 意見収集 保育所 (園)・幼稚園などで8回実施
- ワーキング 年齢別カリキュラムワーキング (3グループ) 各2回開催
 視点別カリキュラムワーキング (4グループ) 各1回開催
- 研修視察 新宿区 木曾岬町
- 報告会・講演会 平成22年 1月23日 (土)
- 「カリキュラム骨子」「視点別カリキュラム」「年齢別カリキュラム」完成

カリキュラム作成に係る調査推進委員会名簿

名前	所属	備考
新井 美保子	学識経験者	平成 19・20・21 年度
加藤 篤子	私立保育園長	平成 21 年度
谷脇 あづさ	私立保育園 保育士	平成 19・20 年度
高山 美枝	私立保育園 保育士	平成 19・20・21 年度
山本 貴美代	公立保育所 保育士	平成 19 年度
二井 真津子	公立保育所 保育士	平成 19・20・21 年度
市野 由美	公立保育所 保育士	平成 20 年度
中川 淳子	公立保育所 保育士	平成 19・20・21 年度
平田 寿恵子	公立保育所 保育士	平成 21 年度
渡邊 美鈴	公立幼稚園 教諭	平成 19・20・21 年度
岡田 容子	公立幼稚園 教諭	平成 19・20・21 年度
落合 智美	公立幼稚園 教諭	平成 19・20・21 年度
西本 智子	公立小学校 教諭	平成 19 年度
川添 久美	公立小学校 教諭	平成 20 年度
伊藤 若菜	公立小学校 教諭	平成 21 年度
堀田 千晶	保健センター保健師	平成 19 年度
齋藤 幸枝	保健センター保健師	平成 20・21 年度

【事務局】

山本 敏江	保健福祉部 子ども家庭課
岩田 洋子	保健福祉部 子ども家庭課
杉浦 裕一	教育委員会 指導課

視点別カリキュラム

《各視点の内容》

① 基本的な生活習慣を身につける視点

養護に関わるねらい及び内容 「ア生命の保持」
五領域 「健康」

子どもが安定した生活を送るために必要な食事・排泄・睡眠・着脱・清潔の基礎的事項を身につける視点である。一人一人の子どもの命や健康・安全を守り、生理的欲求を満たし、生活の安定を図る視点である。

また、自分の健康を守り、健全で安全な食生活をおくる力を育てる食育の工夫などである。

② 人とのかかわる力を育む視点

養護に関わるねらい及び内容 「イ 情緒の安定」
五領域 「人間関係」「言葉」「表現」

保育者との信頼関係を基盤に、子どもが互いにかかわりを深め、協同して遊ぶことの楽しさや、自己を抑制しようとする気持ちを育む視点である。

様々な人とのかかわりの中で人を信頼する気持ち、コミュニケーションをとることの楽しさや規範意識の芽生えを育み、友だち同士心を通わせて遊びを楽しむ力、身近な人々に親しみをもちかかわる力の育成である。

また、多様な感情体験が得られるための工夫である。

③ 体を動かすことを楽しむ視点

五領域 「健康」「表現」

体をしなやかにし、体を動かすことの楽しさ、喜びを育むための視点である。

また、安全についての構えを身につけることのできる力である。

体の発達を促すかかわり、命を守れる子どもの育成である。

④ 探究心を育む視点五領域

五領域 「環境」「言葉」「表現」

興味や関心をもって友だちと遊び、好奇心、思考力をはたらかせ、自ら学ぼうとする意欲を育む視点である。子どもが、あらゆる事象に好奇心を湧かせ、試行錯誤しながら遊びを創りだし進めることができるための人、物、時間、空間等の工夫である。

また、驚き・発見・喜びなど感動のある生活の創造や、豊かな直接体験の場の工夫などである。



① 基本的な生活習慣を身につける視点 [「生命の保持」 「健康」]

発達上の時期	ねらい	援助のポイント
0歳の頃	4か月頃 <保育者に世話をしてもら心地よさを味わう> (食) ・ 一人一人の子どもの状態に応じてゆったりと授乳をし、満足感を得られるようにする。 (排) ・ おむつが汚れたらその都度交換し、不快感を取り除き気持ちよく過ごせるようにする。 (睡) ・ 一人一人の子どもの状態に応じて、眠い時は安心して十分に眠れるようにする。 (清) ・ 体や衣服を清潔に保ち、心地よさを感じられるようにする。 ・ 身の回りを清潔で安全に保ち、安心して過ごせるようにする。	● 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ● 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 (食) ・ 授乳は子どもの楽な姿勢で抱いて目と目を合わせ、やさしく語りかけながら行う。 ・ 一人一人の子どもの哺乳量を考慮して授乳し、哺乳後は必ず排气させ吐乳を防ぐ。 (排) ・ 泣いたりすずたりする子どものサインを見逃さず、汚れたら早めに交換し不快感を取り除く。 ・ 「きれいになったね」「気持ちいいね」等の語り掛けやスキンシップに心がける。 (睡) ・ 午睡は仰向けに寝かせ、睡眠中の顔色、呼吸の状態をきめ細かく観察する。 ・ 十分に睡眠が取れるように、静かで落ち着いた環境を整える。 (清) ・ 一人一人の子どもの状態を観察し、疾病や異常に素早く気付いて対応し家庭に連絡する。 ・ 室内の環境や身の回りの寝具、玩具等を清潔で安全にし、特にエアコン使用時は換気を心がける。 ・ 身体機能が未発達で体温調節がうまくできないことを十分に考慮し、衣服の調節をこまめにする。
	6か月頃 (食) ・ 一人一人に応じて離乳を開始し、ミルク以外の味やスプーンに慣れるようにする。 (排) ・ おむつ交換の気持ちよさを感じるようにする。 (睡) ・ 睡眠と覚醒のリズムを次第に整え、健康的な生活リズムをつくるようにする。	(食) ・ 優しく声をかけながら食べさせる。離乳食は薄味にして味に慣れさせ、徐々に食品の幅を広げていく。 ・ 保育者が口へ入れるのではなく、自ら食べるのを促す。 (排) ・ 泣いたりすずたりする子どもの様子を見守りながら素早く交換する。何をすることが子どもにわかるように「おむつ替えようね」等、保育者がすることを言葉にして伝える。 ・ おむつ交換後は、自分の力で起き上げられるように子どもの状態に応じて援助する。 (睡) ・ 眠る、食べる、遊ぶのリズムを意図的に作りながら十分睡眠がとれるようにする。 ・ 寝返りをするようになるとつづぶせになることがあるので、仰向けで寝るようにする。
	10か月頃 (食) ・ 一人一人の子どもに応じて離乳を進め、様々な食品に慣れるようにする。 (排) ・ おむつ交換の気持ちよさが分かるようにする。	(食) ・ 食事の前後や汚れた時には顔や手を拭き、きれいにすることを知らせる。 ・ 手づかみや手で持つ食べ物を十分にさせて認めながら、自分から食べようとする気持ちを大切に状況に応じた援助をする。 (排) ・ 「カミカミ、ゴックン」等と保育者も一緒に口を動かすなど、よく噛んで飲み込むことを繰り返し知らせる。 ・ いろいろな感情が芽生え、汚れた時の不快感やきれいになった時の気持ちよさが保育者の言葉がけによって分かるようになってくるので、きれいになる心地よさ等を話しかけながらおむつ交換をする。
1歳の頃	前半 <自分でしようとする気持ちを育む> (食) ・ 手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする意欲を大切に。 ・ 一人一人の咀嚼や嚥下の状態を把握し、幼児食への移行を図る。 (排) ・ おむつ交換の気持ちよさが分かるようにする。 オムルや便器に興味をもたせる。 (睡) ・ 一人一人の子どもの姿に応じて適切な午睡をとり、快適に過ごせるようにする。 (着) ・ 保育者に介助されながら自分で脱がうとする。 (清) ・ 体や身の回りを清潔にし、心地よく過ごせるようにする。	(食) ・ スプーンや手づかみで食べようとする意欲を育てる。 ・ 保育者が「いただきます」「ごちそうさま」等のお手本を示すことで、あいさつや食事の始まりと終わりに気付いていくようにする。 ・ 一人一人に合った椅子と机を用意し、食べやすく集中できる環境を整える。 (排) ・ おむつが濡れている時はすぐに取り替え、濡れていない時には無理なくオムルや便器に慣れるようにする。 (睡) ・ 一人一人の生活リズムに合わせて、適切な午睡がとれるようにする。 (着) ・ 子どもの脱いだり着たりする行動に合わせて言葉をかけたり手助けをしたりして、自らしようとする意欲を引き出せるようにする。 ・ 外に出るときは帽子を被ったり、気温などに注意して服装を調節するなど状況に応じた対応をしていく。 (清) ・ 鼻を拭く、汚れたら服を取り替える、手を拭く等をこまめに行い心地よさを言葉で伝えていく。
	後半 (食) ・ 様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気の中で食べられるようにする。 (排) ・ オムルや便器での排便に慣れるようにする。	(食) ・ 手づかみや混じって自分で食べようとする気持ちを大切に、食べ物を一口量に分けて小さくつぶしたりして、子どもがスプーンを使って食べられるように配慮する。 ・ 一人一人に合わせて、椅子や机の高さを調整する。 ・ 遊び食べが始めるので、食事に集中できるような環境を整える。 (排) ・ 排便間隔が一定になりつつあるので、一人一人の排便間隔をつかみ濡れていなければオムルや便器に座らせる。 ・ 偶然うまく排便できた時には大いに誉めて一緒に喜ぶ。 ・ 出なかつたり、嫌がっている時は長く座らせないようにする。
2歳の頃	<自分でしようとする気持ちを大切に、自分でできたという満足感を味わえるようにする> (食) ・ スプーンやフォークを使って食べられるようになる。 (排) ・ 排便したことを保育者に知らせようとする。 (睡) ・ 適切に休息の時間をつくり、心身の疲れを癒せるようにする。 (着) ・ 衣服に興味を示し、自分で脱いだり着たりしようとする。 (清) ・ 手や顔の汚れや鼻汁等に自分で気付き、保育者に知らせたり、保育者の手を借りながら自分できれいにしようとする。	(食) ・ スプーン等を使って食べようとする気持ちを大切に、こぼしても一人で食べる満足感を味わえるようにする。 ・ 先のがった物等の扱いは注意し、食事の道具を正しく使えるように知らせていく。 ・ 「手を洗いな」「エプロンをつけ」「食べる」という一連の流れが分かってくるので、繰り返し大切に食事をすることの楽しさや興味を育てる。 ・ 味覚が発達し好き嫌いが出てくるが、そのことによりこぼれず、無理をせず気長に見守り、食べてみようとする気持ちも育てる。 (排) ・ 一人一人の排便感覚をつかみタイミングよく声をかけ、一緒に行ったり見守ったりすることで安心して次第に自分から排便できるようにし、知らせた時には十分に誉める。 (睡) ・ 外遊びが多くなり動きが活発になってくるので、一日の生活を見通して午睡以外にも休息時間を設けていく。 (着) ・ 難しい部分はさりげなく手助けして、自分でできた満足感を味わえるようにする。 (清) ・ 優しく声をかけて気付かせ、手助けしながらきれいにし、次第に自分でできるように温かく見守る。 ・ 自分で気付けたときには十分に誉め、清潔になることの心地よさを味わえるようにする。
	<身の回りのことを、自分なりにしようとする> (食) ・ 楽しんで食事がとれるようにする。 (排) ・ 次第に尿意を告げたり、失敗もあるが促されて自分で排便しようとする。 (清) ・ 自分の持ち物、場所等が分かり、用意したり元に戻したりしようとする。	(食) ・ ほとんど自分で食べられるようになってくるので、こぼしたり手で食べたりしてもゆとりで見守り、自分でできた満足感を味わえるようにする。 (排) ・ 自分から知らせることを認め、自分でしようとする気持ちを大切に。 ・ ざりざりまで我慢して失敗する事もみられるので、不安にならないように言葉をかけたり、手早く替えの手助けをしたりする。 (清) ・ 着替えかご等を子どもが出し入れしやすい場所に設定するなど環境を整える。
3歳の頃	<身の回りのことを自分でしようとする> (食) ・ 友だちと一緒に食べる楽しさを味わう。 ・ 園で収穫した野菜を見たりおいを嗅いだりして食への関心をもたせる。 ・ 食事の準備や片付けに興味をもつ。 (排) ・ 尿意を感じたら言葉で知らせ、失敗もあるが一人で排便しようとする。 (着) ・ 自分で着脱しようとする。 (清) ・ 保育者の姿を見ながら、自分の使った物を元の場所に戻そうとする。 ・ 保育者に促されて、自分で清潔にしようとする。	● 食事、排泄、衣類の着脱などが自立して行くので子どもが自らしようとする気持ちを大切に、自分でできた満足感を味わえるようにする。 (食) ・ 保育者とかかわりや友だちと一緒に食べる中で、苦手な食べ物や味覚に慣れ少しずつ食べられるように、友だちと楽しんで食事ができる雰囲気作りをする。 ・ 「いただきます」「ごちそうさま」などのあいさつは、繰り返しの中で身につけていくようにする。 ・ 保育者の真似をして配膳や片付けをしようとする意欲を認め、やりたい気持ちを満足させる。 (排) ・ 自分で行けるようになってくるが後始末は難しいので、最後には拭いてあげて清潔感が感じられるようにする。 ・ 失敗した時は不安にならないような配慮を心がける。 (着) ・ 自分で着ていることを十分に認め、必要に応じて手助けを。 ・ 衣服の前後や表裏、靴の左右を知らせて、自分で気付いていけるようにする。 (清) ・ 遊んだ後は保育者が促しながら片付け、きれいになったという心地よさを感じられるようにしていく。 ・ 手洗いやうがい等をして、清潔にしたり病気の予防ができるようにする。
	<一日の生活の流れが分かり、必要なことを自分でしようとする> (食) ・ 友だちとともに楽しんで食べようとする。 ・ 野菜の栽培や収穫などの体験を通して、身近な食品に興味や関心をもたせる。 ・ 歯磨きをする。 (排) ・ 排泄の後始末をしようとする。 (着) ・ 気候や活動に合わせて衣服を調節しようとする。 (清) ・ 自分の体に興味を持ち、清潔にしようとする。 ・ 遊んだ後の玩具や用具等を保育者と一緒に片付けたりするようになる。	● 自分で考えて動けるように周りの様子に気付かせたりして意欲や意欲を育み、生活の仕方が身につくようにする。 (食) ・ 箸の正しい使い方を知らせたり援助したり、また食事のマナーや態度などを知らせていく。 ・ 野菜の栽培や収穫を通して、身近な食品に関心をもつ機会をつくる。 ・ 磨き方を知らせたり取り扱いに注意したりしながら、歯磨きの習慣がくづくようになっていく。 (排) ・ 子どもが自分でできないところを援助しながら、次第に自分できれいに後始末ができるようになっていく。 (着) ・ 暑さや寒さに合わせて衣服の調節が自分でできるように声をかけて知らせたり、衣服をたためるようになっていく。 (清) ・ 汗を拭く、手を洗うなど衛生的な生活を送れるようにする。 ・ 日常生活の様々な場面や機会を通して、自分の体に興味や関心をもたせる。 ・ 自分の体の異常に気付く、自分から知らせることができるようになる。 ・ 保育者と一緒に片付けや整頓をし、きれいになったことの心地よさを共感していくようにする。
4歳の頃	<生活の仕方を身につけ自分の身の回りのことを進んでするとともに、見通しをもって自分たちで進めていこうとする> (食) ・ 食べ物と体の関係に関心をもち、進んで食べようとする。 (着) ・ 気候や活動に合わせて衣服を調節する。 (清) ・ 健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。	● 一日の流れの見通しをも自分たちで進めていこうとする姿を十分認め、必要に応じて言葉をかけたり気付かせたりしていく。 ● 安全に過ごすための習慣を身につけるようにしていく。 (食) ・ 友だちや保育者と一緒に野菜の栽培や収穫、クッキング等の体験をし、身近な食品への興味や関心を高め感謝の気持ちももてるようにする。 ・ 食べ物の中でどんな役割をしているか知らせ、興味をもたせる。 (着) ・ 暑さ寒さの感覚に合わせて自分で衣服の調節ができるようにする。 (清) ・ 清潔が病気の予防につながることに気付かせ、自分で体や衣服、持ち物などを清潔にしておけるようにする。
	<生活の仕方を身につけ自分の身の回りのことを進んでするとともに、見通しをもって自分たちで進めていこうとする> (食) ・ 食べ物と体の関係に関心をもち、進んで食べようとする。 (着) ・ 気候や活動に合わせて衣服を調節する。 (清) ・ 健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。	● 一日の流れの見通しをも自分たちで進めていこうとする姿を十分認め、必要に応じて言葉をかけたり気付かせたりしていく。 ● 安全に過ごすための習慣を身につけるようにしていく。 (食) ・ 友だちや保育者と一緒に野菜の栽培や収穫、クッキング等の体験をし、身近な食品への興味や関心を高め感謝の気持ちももてるようにする。 ・ 食べ物の中でどんな役割をしているか知らせ、興味をもたせる。 (着) ・ 暑さ寒さの感覚に合わせて自分で衣服の調節ができるようにする。 (清) ・ 清潔が病気の予防につながることに気付かせ、自分で体や衣服、持ち物などを清潔にしておけるようにする。

一人一人が大切に育てられるために

友だちとともに主体的に活動するために

② 人とかかわる力を育む視点 〔「情緒の安定」「人間関係」「言葉」「表現」〕

発達上の時期	ねらい	援助のポイント
0歳の頃	4か月頃 <特定の保育者との十分なスキンシップの中で、温かく見守られ安心感をもつ> ・保育者のやさしいかかわりにより、快・不快など豊かな反応を引き出すようにする。	・おむつ交換時や授乳時も、ゆったりとした雰囲気の中で語りかけやスキンシップに心がける。 ・抱き上げたり玩具を見せてあやすなど、信頼関係が育つように対一のかかわりを大事にする。 ・働きかけを期待する仕草を見せるので、敏感にキャッチしてタイミングよくかかわり、気持ちを満たす中で情緒の安定を図る。
	6か月頃 ・親しい人から語りかけられることにより、喜んで声を出したり応えようとしたりする。	・気持ちに合う対応をしたり子どもの行動に言葉を添えたりして、やり取りを十分に発語の意欲を育てる。 ・ゆったりとした気持ちで抱っこし、わらべうた等を通して人と触れ合う心地よさを感じていくようにする。 ・人見知りが出始めるので、安心して自分を出せる保育者との密な触れ合いを通して情緒を安定させていく。
	10か月頃 ・安心できる保育者のもとで情緒が安定する。 ・保育者と同じものを見つめ盛んに指さしをして、自分の意志や要求を伝えようとする。 ・言葉に興味をもち、発語への意欲をもつ。	・大人にあやされて遊ぶことが大好きなので楽しい時間があるように工夫し、一人一人の子どもの欲求や甘えなどを十分に受け入れ、安心して自分の思いを出せるようにする。 ・子どもが指差した方向を向いて、一緒のものを見て言葉をかけたりする中で、共感してもらうれしさを味わえるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で対一のかかわりを積極的にし、喃語や片言を優しく受けとめたり子どもに伝わる言葉で返していく等、やり取りが楽しめるようにする。
1歳の頃	前半 <保育者に遊んでもらうことを喜ぶ> ・安心して自分の感情を出そうとする。 ・自分の思いを喃語や指差などの身振りで伝えようとする。	・怒る、喜ぶ、嫉妬する、すねるなどの様々な感情がみられるようになってくるので、一人一人の子どもの行動や心の動きを理解し、受け入れたり共感したりして、安心して様々な思いを出せるようにする。 ・保育者に遊んでもらうのを喜ぶので、楽しい雰囲気を作り対一でのやり取りを十分楽しめるようにする。 ・話し掛けや応答で思いが伝わることの楽しさを味わえるようにする。
	後半 ・保育者の働きかけを喜び、簡単な言葉を繰り返したりして言葉を使うことを楽しむ。 ・身近な保育者や子どもに関心をもち、かかわろうとする。	・「マンマ」「ブーブー」等の言葉に様々な思いが込められていることを理解し、保育者が言葉を添えて応答的にかかわり、伝えたい意欲を育み、聞いてもらいたい気持ちを満足させる。 ・耳や目など五感を使って言葉を理解していくことに留意し、ゆっくりはっきりと語りかけるように心がける。 ・物の取り合いややり取り等の行動が表れてくるので、友だちの存在に気付かせたり、思いが相手に伝わるように言葉を添えたりして友だちとかわりたいたい気持ちを満たすようにする。 ・同じ玩具を使いたい気持ちが満足できるように環境を整える。
2歳の頃	<信頼関係のある大人に自己主張ができ、何でも自分でやろうとする> ・保育者に受け入れられたり認められたりして、安定して過ごす。 ・自分の気持ちを親しい大人に伝えようとする。 ・身の回りに様々な人がいることに気付き、友だちと触れ合うことを楽しむ。	・やりたい気持ちと、やりたいのにやれない気持ちの間で揺れ動く姿があるので、気持ちを受け止め十分に満足させ、自立心の芽生えを育む。 ・「わんわんきた」等二語文を話せるようになってくるので、ゆったりとした雰囲気を作り、話したい気持ちを受け止めじっくり聞く。 ・繰り返しの絵本等を読んだり、はっきりした言葉で話しかけたり、言葉を真似たりしてやり取りを楽しめるようにする。 ・少しずつ友だちが分かり始め、保育者や友だちの真似を楽しむようになってくるので「…のつもり」「…のふり」を十分に満足させる。「同じね」「一緒ね」などの言葉をかけながら、友だち、なかまという気持ちの芽生えを育む。 ・友だちと同じ所で遊びたい、同じ玩具を使いたいなどの気持ちを受けとめ、満足できる玩具の数を揃えたり、保育者が仲立ちとなったりして一緒に遊べるようにし、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにする。
	<身近な人とかかわったり、友だちと遊ぶことを楽しむ> ・生活に必要な言葉がある程度分かり、自分の気持ちを言葉で表し、やり取りを楽しむ。 ・友だちを意識しながら遊ぼうとする。 ・人とかかわりの中で、きまりのあることに気付く。 ・保育者の手伝いをしようとする。	・子どもが話したい意味を汲み取りながらゆったりと聞き、話したい気持ちを十分に満たす。 ・「入れて」「貸して」等人とかかわりの中で使う言葉を、保育者が使うことで知らせていく。 ・次第に友だちを求め、ままごとなど簡単なごっこ遊びをする中で、玩具の取り合い等のトラブルもあるが、少しずつ友だちに譲ったり我慢したりするようになってくるので、一人一人の気持ちを十分受け止めたり、伝えたりしながら相手の思いに気付かせていく。 ・友だちと一緒に遊んでいるつもりでも平行遊びが多いが、友だちの模倣をすることは人とかかわる力の大切な基礎固めになるので、一緒に遊びたい気持ちの芽生えを大切に育む。 ・友だちと心地よく遊ぶために、貸し借りや順番などのきまり、自分のものと他人のものとの区別に気付かせながら、待ったり譲ったり、我慢したりなど、気持ちの調整をしていけるようにする。 ・大人と一緒にすることをしたい気持ちを受け止め、意欲をもたせたり、人の役に立つ喜びを感じられる言葉がけを工夫したりする。 ・自分でできることも「やって」と甘えることもあるが、甘えられる心地よさを感じさせ満足感をもてるようにする。
3歳の頃	<気に入った友だちが見つかり、そばで遊ぼうとする> ・自分の思ったことや感じたことを言葉にし、保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者や気の合う友だちと一緒にいるような遊びに取り組もうとする。	・自分の思いを出すことを大切にし、一人一人が安心して話せるような雰囲気をつくり、それぞれの思いを十分に受け止めて安定できるようにする。 ・保育者や子ども同士の中で聞くこと、話すことが次第に身につくようにし、やり取りを楽しめるようにする。 ・「入れて」「貸して」「ありがとう」等の言葉を交わす心地よさを味わえるようにし、自ら使えるように促す。 ・友だちとのかかわりを求めるようになってくるので保育者がともに遊ぶ中で、友だちと一緒に遊ぶ楽しさや面白さを味わえるようにする。 ・安定感をもって友だちと遊べるように一人一人を受け止め様子を見守りながら、友だちと一緒に生活していることを意識できるようにかかわる。 ・自分の思いが中心でトラブルになることがあるので、思いが通らず悔しい気持ちを十分に受け止めて気持ちを安定させたり、仲立ちとなって相手に思いを伝えたりする。
	<友だちと一緒に活動する楽しさを味わう> ・思ったことや感じたことを、自分なりの言葉や行動で友だちや保育者に伝え、相手の思いにも気付く。 ・異年齢児と触れ合い、かかわる楽しさを味わう中で思いやりや憧れの気持ちをもつ。 ・日常生活に必要なあいさつをしようとする。 ・当番活動に喜んで参加する。	・互いに思いを出し合い、保育者と一緒に考えたり受け入れたりして歩み寄ろうとし、心を通わせていく心地よさを味わえるようにする。 ・異年齢児と触れ合う中で、年長児の真似をしたい気持ちや年少児への思いやりの気持ちがもてるようなかかわりを心がける。 ・あいさつや返事など、生活や遊びに必要な言葉が使えるように保育者がモデルとなっていく。 ・当番活動に興味をもち、自分からしようとする気持ちを育む。
4歳の頃	<友だちと協同して遊びを創り出し、ともにやりとげる喜びを味わい自信をもって行動する> ・自分の気持ちを伝えるとともに友だちの思いを受け止め、友だちと気持ちを合わせて遊ぼうとする。 ・友だちと共通の目的を見出し、協力したり協調する態度を身につける。 ・異年齢児や様々な人と進んでかかわり触れ合いの中で、コミュニケーションをとることの楽しさを味わい信頼感や愛情をもつ。 ・人とかかわりの中で、きまりの大切さに気付き守ろうとする。 ・当番活動を進んでしようとし、人の役に立つ喜びを味わう。	・子ども同士で話し合う姿や場を大切にし、自己を発揮したり自分たちで考えて行動したりすることの充実感を味わえるようにする。 ・友だちと話し合いをする中で、思いや考えを伝える力や相手の話を聞く力が身につくようにかかわる。 ・自分や友だちの良さに気付き、一人一人の良さを生かし認め合いながら生活を進めていけるようにする。 ・共通の目的に向かって友だちと協同してこうとするようになってくるので自ら行動する力を育て、友だちと力を合わせ試行錯誤し、活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わえるようにする。 ・異年齢児や小学生、生活に関係の深い人々との出会いの場をもち、親しみをもってかかわられるようにする。 ・思いを主張し折り合いをつける体験の中で自分の気持ちを調整する力を育て、より楽しく遊べるように友だちと必要なルールを作ったり守ったりできるようにする。また良いこと悪いことに自分で気付き、考えて行動できるようにする。 ・給食の準備や片付け、飼育物の世話等を進んでする中で、人の役に立つ誇らしさや充実感に共感したり成長を認めていく。
	・友だちと共通の目的を見出し、協力したり協調する態度を身につける。 ・異年齢児や様々な人と進んでかかわり触れ合いの中で、コミュニケーションをとることの楽しさを味わい信頼感や愛情をもつ。 ・人とかかわりの中で、きまりの大切さに気付き守ろうとする。 ・当番活動を進んでしようとし、人の役に立つ喜びを味わう。	・子ども同士で話し合う姿や場を大切にし、自己を発揮したり自分たちで考えて行動したりすることの充実感を味わえるようにする。 ・友だちと話し合いをする中で、思いや考えを伝える力や相手の話を聞く力が身につくようにかかわる。 ・自分や友だちの良さに気付き、一人一人の良さを生かし認め合いながら生活を進めていけるようにする。 ・共通の目的に向かって友だちと協同してこうとするようになってくるので自ら行動する力を育て、友だちと力を合わせ試行錯誤し、活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わえるようにする。 ・異年齢児や小学生、生活に関係の深い人々との出会いの場をもち、親しみをもってかかわられるようにする。 ・思いを主張し折り合いをつける体験の中で自分の気持ちを調整する力を育て、より楽しく遊べるように友だちと必要なルールを作ったり守ったりできるようにする。また良いこと悪いことに自分で気付き、考えて行動できるようにする。 ・給食の準備や片付け、飼育物の世話等を進んでする中で、人の役に立つ誇らしさや充実感に共感したり成長を認めていく。

一人一人が大切に育てられるために

友だちとともに主体的に活動するために

③ 体を動かすことを楽しむ視点 [「健康」「表現」]

発達上の時期	ねらい	援助のポイント
0歳の頃	<p><首がすわり、手足の動きが活発になる></p> <ul style="list-style-type: none"> 首がすわる、腹ばい等、体の成長に応じた活動を促す。 見る、聞く、触る、握る等ができるよう、感覚の動きが豊かになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の声かけや動く玩具、音のする玩具に興味を引き出し、感覚を十分には働かせながら手や足を動かす楽しさを味わえるようなかかわりをする。 スキンシップが身体感覚を育てるので体のマッサージや手足の曲げ伸ばし等で十分に体に触れ、動かしてもらったり触れてもらったりする心地よさを味わえるようにする。 手が開いてくるので、がらがら等を持たせ握る運動を促す。 なめても安全で飲み込んでしまわない大きさの物で、心地よい音の出る玩具や握りやすい玩具等、一人一人に合った玩具を用意する。
	<p><寝返りなどの運動機能が発達する></p> <ul style="list-style-type: none"> 腹ばい、寝返り等を十分にを行うようにする。 見る、聞く、触る等の経験を通して、目、耳、手などの感覚や機能の働きを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 優しく語りかけたり抱き上げたり、転がる物や音のする物等、興味もてるような玩具を準備して、腹ばい、寝返りなどの動きを楽しみ引き出せるようにする。 ずりばい、お座り、はいはいなどの動きにつながるように、子どもの状態に合わせて手を添えたり、声をかけたりする。 足の親指の突っ張りはいはいへとつながるので、手の平を当てて突っ張りを促したり、ひっぱり玩具などで動きを引き出せるようにする。 段差、角、触れて落下する物が回りにないことを確かめ、安全で活動しやすい環境を作り、十分に体を動かせるようにする。 つかんだり、振ったり、転がしたりする玩具を手の届く所に用意し、手、指を十分使って遊べる環境を作る。 指先の動きを促せるように、堅さや感触の違う物を準備する。 動くものに興味を示すので、目で追ったり自分から取ろうとする動きを促す玩具を用意する。
	<p><お座り、はいはい、つかまり立ち等の運動機能が発達する></p> <ul style="list-style-type: none"> お座り、はいはい、つかまり立ち等を十分にしようとする。 見る、聞く、触る等して遊び、目、指などの感覚や機能を働かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ障害物をなくして空間を広くとり、保育者も一緒にはいはいで追いかけてたり追いかけられたりして楽しさを共感していく。 つかまり立ちをしても自分で座ることのできない時期は安全に十分気を付けて見守る。 箱車など重みのある物を押し、両足が交互に前に出る経験を歩行につなげていく。 動きが活発になり移動範囲も広がってくるので子どもの動きを見守り、転倒してもよいように床にマットをひく等安全面には十分配慮する。 わらべうた等を歌いながら揺さぶり遊びで体の動きを楽しんだり、心地よいリズムを味わえるようにし感覚や機能の発達を促す。 手指の感覚を育めるように、つかんだり、容器から出し入れて楽しめる玩具を準備する。 飲み込んでしまわないような、素材や大きさ等に注意する。
1歳の頃	<p><一人歩きができるようになり、自分が行きたいところにいけるようになる></p> <ul style="list-style-type: none"> つかまり立ち、伝い歩き、一人歩き等の身体活動を楽しむ。 見る、聞く、触る、握る等して遊び、目、指などの感覚や機能を豊かにする。 歩行が安定し、坂道や砂利道等いろいろな所を歩くことを楽しむ。 保育者の真似をして簡単な手遊びをしたり、身近な音楽を聞いたりして体を動かすことを楽しむ。 腕全体を十分に使ったり、めくる、つまむ等、手先や手首を使う遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩けるようになってくるが、はうことも十分に楽しめるように、保育室にトンネルや緩やかな斜面などを作り、保育者もともに楽しむ。 遊びのコーナーに使っているついたて等につかまって立ち上がりたり、伝い歩きをしたりするので、高さや安全性に配慮した環境づくりに心がける。 指先が器用になり、入れたり出したり落としたりするようになるので、穴落としなどの玩具を用意する。 園庭や散歩に出て、平らな所だけでなくいろいろな所を歩けるようにしたり、乗用玩具に乗ったり押ししたりすることで、歩くことを十分に楽しめるようにする。 10cmくらいの高さの昇り降りや、かがんでくぐったりなどの遊びが十分できるような環境を工夫する。 保育者がする手遊びやわらべうた遊び等に合わせ体を揺らしたり、動かしたりすることに興味をもたせ楽しめようとする。 なぐりがきや、積み木を積む、絵本をめくる等、腕全体や指先を使った遊びを通して、腕や手指の動きを促す。
	<p><歩く、走る、跳ぶ等、自分の思うように体を動かせるようになる></p> <ul style="list-style-type: none"> 走る、跳ぶ、登る、降りるなど全身を使った遊びを楽しむ。 保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌をロザンさん、曲に合わせて体を動かす遊びを楽しむ。 保育者と一緒に手指を使う遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に走る、跳ぶ等全身を使う遊びを取り入れ、子どもの動きに合わせて遊ぶことで意欲を引き出していく。 行動範囲が広がってくるので、安全面に留意する。 保育者の真似を楽しむようになってくるので、親しみもてる歌をうたったり踊ったり、簡単な動作と一緒に楽しめるようにする。 遊びの中で楽しく手指を使えるように大きさ、やわらかさ、数、種類などに配慮して遊具を整える。
3歳の頃	<p><自分の思うように体を動かせるようになる></p> <ul style="list-style-type: none"> 戸外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。 感じたことや思ったことを歌ったり、体を動かしたりして自由に表現することを楽しむ。 ちぎる、のぼす、つまむなど手、指を使う遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定遊具に興味を持ち始めるので、安全に配慮しながら見守り、危険な場合はその都度知らせ、子どもが自分で気付くようにしていく。 室内に運動遊具や用具を設定し、十分に体を動かして遊べるようにする。 子どもの好きな歌やリズム感のある曲を選び、保育者も一緒に歌ったり体を動かしたりして表現する事を楽しめるようにしていく。 紙や粘土等いろいろな素材を工夫し、つまむ、ちぎる、のぼす等、手指を使っている遊びを取り入れ、指先の機能の発達を促す。
3歳児	<p><全身のバランスがよくなり、体の動きが巧みになる></p> <ul style="list-style-type: none"> 戸外で走ったり、登ったり、跳んだりする等、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 音楽に親しみ聞いたり、歌いながら体を動かしたりすることを楽しむ。 物や場所の安全な使い方が分かり、気を付けて遊ぼうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定遊具で体を十分使うことを楽しみながら、思うように体を動かせる満足感を味わえるようにする。 友だちや保育者と一緒に、追いかけてたり追いかけられたりする遊びを十分楽しめるようにする。 体を動かすことが楽しくなり、何でもやってみようという意欲をもつようになってくるので、子どもができることをたくさんすることにより、力を調整したり蓄えたりできるようにしていく。 子どもの好きな歌やリズム感のある曲を選び、保育者や友だちと表現することを楽しめるようにする。 友だちと一緒に簡単な触れ合い遊びやわらべうた遊びを楽しめるようにする。 危険への判断が難しいので、状況に応じて声をかけ気付けさせていく。 自分で気付いて行動できた時には、次の行動につなげていけるように十分に認めていく。
4歳児	<p><喜んで運動遊びをしたり、友だちと一緒に遊ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者や友だちと一緒に、戸外で体を十分に動かすことを楽しむ。 簡単なルールのある遊びの楽しさを味わう。 友だちの姿を見て、自分もやってみようという気持ちをもって楽しんで遊ぶ。 友だちと体を触れ合わせて遊ぶことを楽しむ。 イメージに合わせて体で表現することを楽しむ。 遊具や用具の正しい使い方を知り、安全に気を付けて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 片足跳びやスキップ等、広い場でのびのびと思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 集団遊びを取り入れ、みんなで遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 いろいろな動きを組み合わせて遊ぶことを楽しむようになってくるので、平均台や巧技台など様々な運動遊具、用具を用意し、楽しめる環境を作っていく。 新しい遊びにも自分から挑戦したり、友だちの姿を見て意欲を湧かせるなど“やってみよう”という気持ちが旺盛になってくるので、一人一人に応じて援助し意欲を育んでいく。 手遊びやわらべうた、リズム遊びを取り入れ、友だちと触れ合って遊ぶ中で、気持ちを通わせて動く経験ができるようにする。 イメージしやすいものを取り入れ、体で様々な表現をする楽しさを味わえるようにする。 保育者が見守る中で自分で判断しようとする姿を認めたり、安全に気付くように促していく。
5歳児	<p><全身運動が滑らかになり、様々な運動に意欲的に挑戦する></p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に体を十分に動かして集団遊びやルールのある遊び、複雑な運動遊び等を楽しむ。 自分なりの目標をもって遊びに取り組み、やり遂げようとする。 危険に気付き、安全な行動が取れるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考えた作戦やルールに沿って遊ぶ中で、友だちと気持ちを合わせて自分の動きを調整しながら遊ぶ経験が十分できるようにする。 子どもの発想を大切にしながら、みんなで楽しめるようにいろいろな遊び方やルールを一緒に作っていく。 繰り返し挑戦しながら目標に向かってやり遂げようとする気持ちを大切に、保育者や友だち同士で教え合ったり励まし合ったりして、できた喜びをともに味わい、自信につなげていく。 行動に見通しももてるようになってくるので、子どもと一緒に考えながらその場に応じた行動がとれるようにしていく。

一人一人が大切に育てられるために

友だちとともに主体的に活動するために

④ 探究心を育む視点

〔 「環境」 「表現」 「言葉」 〕

発達上の時期	ねらい	援助のポイント
0歳頃	<p>4か月頃</p> <p>＜特定の保育者との触れ合いの中で、感覚の働きを豊かにする＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の保育者との触れ合いの中で、見たり聞いたり触れたりして遊ぶ経験を十分に、感覚の働きを豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 人や物、声や音ができる方をじっと見たり、追視したりするようになってくるので、子どもの見える所に吊り玩具を付けたりして、音や色彩、感触、揺れを保育者とともに楽しめようとして外界への関心を広げる。 清潔で安全な玩具を用意し、手に持たせて振ったり、口に入れてためたりして楽しむ中で、感触を試することができるようにする。
	<p>6か月頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心できる保育者と一緒に、身近な玩具で遊ぶ事を繰り返し楽しむ。 うつ伏せで頭と肩を持ち上げ、視界を広げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目と手の協応が始まってくるので、大きさ・形・色・音質・堅さ・感触など子どもの発達に合った玩具や、触ると音がしたり動いたりする玩具も用意し、驚きや楽しさを十分味わえるようにする。 あお向けからうつぶせにしたり立位で抱くなどスキンシップを十分にとりながら、いろいろな姿勢がとれるように配慮し、視界や気分を変え遊びへの意欲を育む。
	<p>10か月頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 目や指等の感覚や機能を働かせるようにする。 絵本や玩具、身近な生活用品を見たり触れたりして、身の回りのものに興味や好奇心を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 容器の中の物を次々と出したり、両手に物を持って打ち合わせたりする動作等が出てくるので、指先で操作する面白さを十分に満足できる玩具を用意し保育者ともに楽しむ。 テラスや園庭、園外に出て石ころ等屋内にはない素材に触れたり、植物、動物等を見て楽しむ機会をもち、遊びの世界や外への関心を広げていく。 目に見えなくなったり出てくるのを期待して待つなど、目に見えないものをイメージする力が芽生えてくるので、「いないいないばあ」等の遊びで、楽しさを味わえるようにする。 色彩のきれいな物や身近な生活用品等を用意して、触れたり動かしたりして遊ぶことを通じて興味を引き出していく。
1歳頃	<p>前半</p> <p>＜興味をもったことやものに意欲的にかかわろうとする＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 見るもの、聞こえるもの、触れるものに興味をもち、探索を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 間仕切り等をして、一人でじっくりと落ち着いて遊ぶような空間を用意する。 子どもが遊んでいる姿に言葉を加えたりして、次への意欲を引き出せるように心がける。 一方を引っ張ると反対側が上がるなど変化を楽しんだり、試したりできるような玩具等を準備し探索意欲を満たすようにする。
	<p>後半</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの様々なものを使って保育者と「・・・のつもり」を楽しむ。 親しみの持てる自然素材や小動物、植物等を見たり触れたりして興味や関心をもつ。 絵本や身近な道具・玩具などに興味をもち、保育者と一緒にそれらを使った遊びや表現を楽しむ。 なぐりがきを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ絵本やまごなどのコーナーを作っていく、人形、手提げかばん等身の回りのいろいろな道具を用意して、保育者と一緒に遊びに入り子どもの中の「・・・のつもり」を広げ、ごっこ遊びの芽生えを培う。 犬の実物や絵を指差して「ワンワン」と発声する等、言葉と対象が一致してわかり始めるので、子どもの言葉を受け入れ、やり取りを楽しめるようにする。 水、砂などの素材やいろいろな容器を用意して、すくったり移しかえたりこぼしたりする楽しさや、素材の感触を十分味わえるようにする。 戸外で遊んだり散歩に出たりして、花や虫を見つけたり触ったりすることで感覚機能を高める。 子どもの驚きや喜びの表情を見逃さず受け止めて共感し、好奇心や興味を満たす。 絵本等の一節を口真似したりして繰り返し楽しむ姿があるので、覚えやすい内容のものを選んだり、リズムをつけて読んだり等工夫していく。 安全な材料やコーナーを用意し、保育者が見守る中で自由に楽しめるような言葉がけや援助をする。
	<p>2歳の頃</p> <p>＜身の回りの関心のあることを模倣して遊ぶ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者とともに自分なりのイメージで「みたて」「・・・のつもり」の遊びを楽しむ。 感じたこと、思ったことを言葉を使って表現しようとする。 絵本や紙芝居の絵や短い繰り返しを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人がやっていることに興味を示し真似をするようになってくるので、身近な遊びの空間として「まごごとコーナー」などを作ったりして、保育者との一対一のやり取りを繰り返し楽しめるようにする。 水・砂・粘土・小さい積み木・ブロックなどを用意し、みたて遊びやつもり遊びを十分に楽しめるようにする。 丸がかけようになり、かいた丸に興味付けをするようになってくるので、子どもの言葉に耳を傾け、表現しようとする気持ちを受け止める。 話したい気持ちや膨らんでくるので子どもの伝えようとするのを先取りしないように待ち、相槌を打ったり子どもの気持ちを察したりして、自分から表現しようとする気持ちを育てる。 伝えたいような新鮮な驚きや喜び、感動のある体験の場を保育者と一緒に楽しみながら作り、遊びをより豊かなものにしていく。 繰り返しのある短いお話を喜んで聞くので、絵本や紙芝居など子どもの状況に応じて遊び、時にはみんなで見る機会も共有や共感を楽しめるようにする。
3歳頃	<p>3歳の頃</p> <p>＜身近な環境に興味を持ち、親しむ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に人や動物などの模倣などをして、簡単なごっこ遊びを楽しむ。 身近な動物や自然現象に触れ、親しみをもち、 感じたことや思ったことを話したり、歌ったり、体を動かしたりして遊びに取り入れる。 身の回りの様々な事象に対し、「なぜ」「どうして」など不思議に思ったことを盛んに質問をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちに寄り添いながら、保育者も遊びの一員になり、なりきる楽しさを共感していく。 ごっこ遊びが楽しめるような玩具や場所など環境を工夫する。 親しみのもてる小動物や植物を保育室に置き、子どもが見たり触れたりして好奇心をもてるような環境を設定する。また興味や関心を広げられるような言葉がけやかわりを工夫する。 子どもが日頃親しんでいる音楽や用具等を用意し、保育者が共に表現しながら楽しさを共感したりイメージを引き出す言葉がけをしたりしながら、興味や表現の方法を広げていく。 子どもの発見や驚き・疑問等に共感し、一緒に考えたり試したりして根気よく丁寧にかかわり、子どもの知りたい気持ちを満足させる。
	<p>3歳児</p> <p>＜身近な環境に関心をもち、自分からかかわろうとする＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験したことを自分なりに再現して遊ぶ。 身近な動物や自然現象に親しみ、遊ぶことを十分に楽しむ。 感じたことや思ったことをかいたり、つくったりして自由に表現しようとする。 絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりしてその内容や面白さを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> エプロンなど身につけるものの用意、場の設定など、一人一人のイメージが表現できるような物や空間の提示や、十分に楽しめる言葉のやり取りをしながら、保育者も共に楽しむ。 散歩に出かけたりして自然に直接触れ、においをかいだり触ったり、美しさを感じたり、またクラスで生き物を飼育したりして興味や膨らむようにする。 水、砂、泥などで思う存分楽しみ、これらの素材の感触に気付いていくようにする。 曲線や円、波線等をかいたり、はさみやのり等の道具を使う中で、偶然できた形を見立てるなど形に興味をもったり、つくったりすることを楽しくするようにする。 道具の正しい扱い方を知らせ、危険のないよう見届ける。 場面や繰り返しの面白さが感じられるような絵本や紙芝居を繰り返し読み聞かせる。
	<p>4歳児</p> <p>＜身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり考えたりする＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生活経験をごっこに取り入れ、友だちや保育者と共にイメージを膨らませて遊ぶ。 身近な動物の世話を楽しくて行い、関心や愛情をもつ。 身の回りの事象や数、量、形等に関心をもつ。 感じたことや思ったこと、想像したこと等を様々な方法で自由に表現する楽しさを味わう。 いろいろな素材に慣れて、自分なりの使い方を楽しむ。 絵本、童話、視聴覚教材等を見たり聞いたりしてイメージを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割を意識して友だちとごっこ遊びを楽しむようになってくるので、イメージを共有しやすい物や場の設定を子どもと共に、イメージをつなげるような援助をする。 鉢や飼育箱等を子どもが毎日観察しやすい場所に置き、保育者の思いを寄せる姿を見たり言葉かけたりして、子どもが自らかわらうとする気持ちを育てる。その中で、生き物の育ちへの興味関心や、いとおむ気持ちをもたせるようにしていく。 生活の様々な場面の中で、自然や社会の事象に対する好奇心や探索心を満たすようにする。 具体的に体験することで数や量等への感覚を育み、日常的な言葉がけの中で興味を引き出していく。 空き箱等廃材や自然物等の様々な素材や用具をいつでも使える場所に用意し、子どものイメージに合わせて準備する。 砂を水で固めて山を作ったりトンネルを掘ったり等、できたり崩れたりすることを保育者もともに楽しみ繰り返し中で素材の性質を理解したり、工夫したりすることを大切にしている。 日常生活や絵本、童話、歌等を通して、様々な言葉の決まりや面白さ等に気付く、言葉の感覚が豊かになるようにする。
5歳頃	<p>5歳の頃</p> <p>＜意欲や好奇心、探究心をもって環境にかかわり、発見したり、考えたりしたこと等を生活に取り入れていくようにする。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちと考えたり工夫したりしながら、満足するまで遊びを楽しむようにする。 自然現象の性質や変化、大きさ、美しさ、不思議さなどを感じたり関心をもったりする。 身近な動物植物に親しみをもつて育てたり、大切にしたりして生命の尊さに気付く。 身近にある文字や数、量等に関心を深め、それらを使う楽しさを味わう。 感じたことや思ったこと、想像したこと等を友だちとともに表現することを楽しむ。 絵本、童話、視聴覚教材等を見たり聞いたりして、様々なイメージを広げ想像することの楽しさを味わう。 身近な施設や公共機関等に興味や関心をもち、人々が様々な営みをしていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとイメージを共有し自分たちで遊びを進めていくようになってくるので、友だちの考えに触れる中でアイデアや発想を引き出し、新しい考えを生み出す喜びを味わえるようにし、自ら考えようとする気持ちを育てる。 子どもの姿や物の動きに目を配り、遊びが広がりが深まるように新たな物の提示、場の設定など環境の再構成に努め、アイデアの提案、考えの整理等、状況に応じて援助をしながら、やり遂げられるように配慮する。 昨日から今日、今日から明日へと遊びが継続していくような人、物、時間、空間など環境の工夫をする。 直接的な体験を通して自然や社会の事象に対する好奇心や探索心を満たせるように、調べたり試したりできるような環境を工夫する。 環境に働きかけて感じた喜びや感動、発見に共感する保育者や友だちがいることがさらなる探究心を育むことにつながるため、一人一人の感動を見逃さず、寄り添うかわりを大切にしている。 飼育・栽培を通して、動物植物がどのようにして生きているのかや育つのかに興味をもち、生命がもつ不思議さや尊さに気付かせていく。また、自分たちの生活とのかかわりに目を向け、感謝やいたわりの気持ちを育てていく。 遊びの中で文字を書いたり、数を数えたりなどの経験ができる場を見逃さず、楽しみながら興味、関心を広げていく。 表現しようとするもののイメージが豊かに湧くような雰囲気をつくり、子どもが様々な材料や用具を適切に使えるようにし、表現する喜びを味わえるように配慮する。 絵本や童話等の内容を自らの経験と結びつけたり、想像をめぐらせたりして感性が豊かになるように、心に触れたり、言葉のリズムを楽しむ内容の物を選び、言葉や感性が豊かになるようにする。 身近にいる大人の仕事を見て、自分の生活と大切なかわりのある事に気付くように配慮する。

一人ひとりが大切に育てられるために

友だちとともに主体的に活動するために

年齢別カリキュラム



4か月頃

【発達のおもな特徴】

- 睡眠と覚醒がはっきりしてくる
- あやされて微笑む
- 不快な時に泣く
- 首がすわる

【保育の中で引き出したい姿】

- ◇ いつも世話をしてくれる保育者のもとで安心して過ごす

【保育のポイント】

- ☆ 心身の未熟性を理解し、保護者との連携を特に密にする
- ☆ 子どもの発達、発達状態を把握し一人一人に応じる
- ☆ 「快」「不快」のサインを見逃さずに応える
- ☆ 人とかかわりの基礎となるので微笑みかけたり、あやしたりして特定の大人との関係をしっかりとつ

視点	ねらい	援助のポイント
<p>① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」</p>	<p><保育者に世話をしてもらおう心地よさを味わう></p> <p>(食) ・ 一人一人の子どもの状態に応じてゆったりと授乳をし、満足感を得られるようにする。</p> <p>(排) ・ おむつが汚れたらその都度交換し、不快感を取り除き気持ちよく過ごせるようにする。</p> <p>(睡) ・ 一人一人の子どもの状態に応じて、眠い時は安心して十分に眠れるようにする。</p> <p>(清) ・ 体や衣服を清潔に保ち、心地よさを感じられるようにする。 ・ 身の回りを清潔で安全に保ち、安心して過ごせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ● 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 <p>(食) ・ 授乳は子どもの楽な姿勢で抱いて目と目を合わせ、やさしく語りかけながら行う。 ・ 一人一人の子どもの哺乳量を考慮して授乳し、哺乳後は必ず排気させ吐乳を防ぐ。</p> <p>(排) ・ 泣いたりぐずったりする子どものサインを見逃さず、汚れたら早めに交換し不快感を取り除く。 ・ 「きれいになったね」「気持ちいいね」等の語り掛けやスキンシップに心がける。</p> <p>(睡) ・ 午睡は仰向けに寝かせ、睡眠中の顔色、呼吸の状態をきめ細かく観察する。 ・ 十分に睡眠が取れるように、静かで落ち着いた環境を整える。</p> <p>(清) ・ 一人一人の子どもの状態を観察し、疾病や異常に素早く気付いて対応し家庭に連絡する。 ・ 室内の環境や身の回りの寝具、玩具等を清潔で安全にし、特にエアコン使用時は換気を心がける。 ・ 身体機能が未発達で体温調節がうまくできないことを十分に考慮し、衣服の調節をこまめにする。</p>
<p>② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」</p>	<p><特定の保育者との十分なスキンシップの中で、温かく見守られ安心感をもつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者のやさしいかかわりにより、快・不快など豊かな反応を引き出すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おむつ交換時や授乳時も、ゆったりとした雰囲気の中で語りかけやスキンシップに心がける。 ・ 抱き上げたり玩具を見せてあやすなど、信頼関係が育つように対一のかかわりを大事にする。 ・ 働きかけを期待する仕草を見せるので敏感にキャッチしタイミングよくかかわり、気持ちを満たす中で情緒の安定を図る。
<p>③ 体を動かす楽しさを育む視点 「健康」 「表現」</p>	<p><首がすわり、手足の動きが活発になる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首がすわる、腹ばい等、体の成長に応じた活動を促す。 ・ 見る、聞く、触る、握る等ができるよう、感覚の働きが豊かになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者が声をかけたり、動く玩具や音のする玩具に興味を引き出したりして感覚の働きを豊かにする。 ・ スキンシップが身体感覚を育てるので体のマッサージや手足の曲げ伸ばし等で十分に体に触れ、動かしてもらったり触れてもらったりする心地よさを味わえるようにする。 手が開いてくるので、がらがら等を持たせ握る運動を促す。 ・ なめでも安全で飲み込んでしまわない大きさの物で、心地よい音の出る玩具や握りやすい玩具等、一人一人に合った玩具を用意する。
<p>④ 探究心を育む視点 「環境」 「表現」 「言葉」</p>	<p><特定の保育者との触れ合いの中で、感覚の働きを豊かにする></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の保育者との触れ合いの中で、見たり聞いたり触れたりして遊ぶ経験を十分に、感覚の働きを豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人や物、声や音がする方をじっと見たり、追視したりするようになってくるので、子どもの見える所に吊り玩具を付けたりして、音や色彩、感触、揺れを保育者とともに楽しめるようにし外界への関心を広げる。 ・ 清潔で安全な玩具を用意し、手に持たせて振ったり、口に入れてなめたりして楽しむ中で、感触を試すことができるようにする。

6か月頃	【発達のおもな特徴】	【保育の中で引き出したい姿】	【保育のポイント】
視点	ねらい	援助のポイント	
① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」	<p><保育者に世話をしてもらい心地よさを味わう></p> <p>(食) ・ 一人一人に応じて離乳を開始し、ミルク以外の味やスプーンに慣れるようにする。</p> <p>(排) ・ おむつ交換の気持ちよさを感じるようにする。</p> <p>(睡) ・ 睡眠と覚醒のリズムを次第に整え、健康な生活リズムをつくるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ● 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 <p>(食) ・ 優しく声をかけながら食べさせる。離乳食は薄味にして味に慣れさせ、徐々に食品の幅を広げていく。</p> <p>・ 保育者が口へ入れるのではなく、自ら食べるのを促す。</p> <p>(排) ・ よく動くようになるので、玩具を持たせたりして素早く交換する。何をするのが子どもにわかるように「おむつ替えようね」等、保育者がすることを言葉にして伝える。</p> <p>・ おむつ交換後は、自分の力で起き上がれるように子どもの状態に応じて援助する。</p> <p>(睡) ・ 眠る、食べる、遊ぶのリズムを意図的に作りながら十分睡眠がとれるようにする。</p> <p>・ 寝返りをするようになるとうつぶせになることがあるので、仰向けで寝るようにする。</p>	
② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」	<p><特定の保育者との十分なスキンシップの中で、温かく見守られ安心感をもつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親しい人から語りかけられることにより、喜んで声を出したり応えようとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちに合う対応をしたり子どもの行動に言葉を添えたりして、やり取りを十分にし発語の意欲を育てる。 ・ ゆったりとした気持ちで抱っこし、わらべうた等を通して人と触れ合う心地よさを感じていくようにする。 ・ 人見知りが出始めるので、安心して自分を出せる保育者との密な触れ合いを通して情緒を安定させていく。 	
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」	<p><寝返りなどの運動機能が発達する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腹ばい、寝返り等を十分に行えるようにする。 ・ 見る、聞く、触る等の経験を通して、目、耳、手などの感覚や機能の働きを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優しく語りかけたり抱き上げたり、転がる物や音のする物等、興味をもてるような玩具を準備して、腹ばい、寝返りなどの動きを楽しく引き出せるようにする。 ・ ずりばい、お座り、はいはいなどの動きにつながるように、子どもの状態に合わせて手を添えたり声をかけたりする。 ・ 足の親指の突っ張りがはいはいへとつながるので、手の平を当てて突っ張りを促したり、ひっぱり玩具などで動きを引き出せるようにする。 ・ 段差、角、触れて落下する物が回りにないことを確かめ、安全で活動しやすい環境を作り、十分に体を動かせるようにする。 ・ つかんだり、振ったり、転がしたりする玩具を手の届く所に用意し、手、指を十分使って遊べる環境を作る。 ・ 指先の動きを促せるように、堅さや感触の違う物を準備する。 ・ 動くものに興味を示すので、目で追ったり自分から取ろうとする動きを促す玩具を用意する。 	
④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」	<p><特定の保育者との触れ合いの中で、感覚の働きを豊かにする></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる保育者と一緒に、身近な玩具で遊ぶ事を繰り返し楽しむ。 ・ うつぶせで頭と肩を持ち上げ、視界を広げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目と手の協応が始まってくるので、大きさ・形・色・音質・堅さ・感触など子どもの発達に合った玩具や、触ると音がしたり動いたりする玩具も用意し、驚きや楽しさを十分に味わえるようにする。 ・ あお向けからうつぶせにしたり立位で抱くなどスキンシップを十分にとりながら、いろいろな姿勢がとれるように配慮し、視界や気分を変え遊びへの意欲を育む。 	

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">10か月頃</div>	【発達のおもな特徴】 ○ 発語が始める ○ 身近な大人との交流を求め、喜ぶ ○ はいはいやつかまり立ちをする ○ 指先を起用に使い始める	【保育の中で引き出したい姿】 ◇ 保育者との信頼関係の中で、身近な人やものに好奇心をもつ。 ◇ 手差し、指差しによるコミュニケーションを楽しむ ◇ 移動運動を楽しむ	【保育のポイント】 ☆ 心身の未熟性を理解し、保護者との連携を特に密にする ☆ 子どもの発育、発達状態を把握し一人一人に応じる ☆ 「快」「不快」のサインを見逃さずに応える ☆ 人のかかわりの基礎となるので微笑みかけたり、あやしたりして特定の大人との関係をしっかりとつ
視 点	ねらい		援助のポイント
① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」「健康」	<保育者に世話をしてもらい心地よさを味わう> (食) 一人一人の子どもに応じて離乳を進め、様々な食品に慣れるようにする。 (排) おむつ交換の気持ちよさが分かるようにする。		● 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ● 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 (食) ・ 食事の前後や汚れた時には顔や手を拭き、きれいにすることを知らせる。 ・ 手づかみや手で持って食べることを十分にさせて認めながら、自分から食べようとする気持ちを大切に状況に応じた援助をする。 ・ 「カミカミ、ゴックン」等と保育者も一緒に口を動かすなど、よく噛んで飲み込むことを繰り返し知らせていく。 (排) ・ いろいろな感情が芽生え、汚れた時の不快感やきれいになった時の気持ちよさが保育者の言葉がけによって分かるようになってくるので、きれいになる心地よさ等を話しかけながらおむつ交換をする。
② 人とのかかわる力を育む視点 「情緒の安定」「人間関係」「言葉」「表現」	<特定の保育者との十分なスキンシップの中で、温かく見守られ安心感をもつ> ・ 安心できる保育者のもとで情緒が安定する。 ・ 保育者と同じものを見つめ盛んに指さしをして、自分の意志や要求を伝えようとする。 ・ 言葉に興味をもち、発語への意欲をもつ。		・ 大人にあやされて遊ぶことが大好きなので楽しい時間がもてるように工夫し、一人一人の子どもの欲求や甘えなどを十分に受け入れ、安心して自分の思いを出せるようにする。 ・ 子どもが指差した方向を向いて、一緒のものを見て言葉をかけたりする中で、共感してもらおううれしさを味わえるようにする。 ・ 楽しい雰囲気の中で一対一のかかわりを積極的にし、喃語や片言を優しく受けとめたり子どもに伝わる言葉で返していく等、やり取りが楽しめるようにする。
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」「表現」	<お座り、はいはい、つかまり立ち等の運動機能が発達する> ・ お座り、はいはい、つかまり立ち等を十分にしようとする。 ・ 見る、聞く、触る等して遊び、目、指などの感覚や機能を働かそうとする。		・ できるだけ障害物をなくして空間を広くとり、保育者も一緒にはいはいで追いかけてたり追いかけられたりして楽しさを共感していく。 ・ つかまり立ちをしても自分で座ることのできない時期は安全に十分気を付けて見守る。 ・ 箱車など重みのある物を押し、両足が交互に前に出る経験を歩行につなげていく。 ・ 動きが活発になり移動範囲も広がってくるので子どもの動きを見守り、転倒してもよいように床にマットをひく等安全面には十分配慮する。 ・ わらべうた等を歌いながら揺さぶり遊びで体の動きを楽しんだり、心地よいリズムを味わえるように感覚や機能の発達を促す。 ・ 手指の感覚を育めるように、つかんだり、容器から出し入れして楽しめる玩具を準備する。 ・ 飲み込んでしまわないような、素材や大きさ等に注意する。
④ 探究心を育む視点 「環境」「言葉」「表現」	<特定の保育者との触れ合いの中で、感覚の働きを豊かにする> ・ 目や指等の感覚や機能を働かせるようにする。 ・ 絵本や玩具、身近な生活用具を見たり触れたりして、身の回りのものに興味や好奇心を示す。		・ 容器の中の物を次々と出したり、両手に物を持って打ち合わせたりする動作等が出てくるので、指先で操作する面白さを十分に満足できる玩具を用意し保育者も共に楽しむ。 ・ テラスや園庭、園外に出て石ころ等屋内にはない素材に触れたり、植物、動物等を見て楽しむ機会をもち、遊びの世界や外への関心を広げていく。 ・ 目に見えなくなったものが出てくるのを期待して待つなど、目に見えないものをイメージする力が芽生えてくるので、「いないいないばあ」等の遊びで、楽しさを味わえるようにする。 ・ 色彩のきれいな物や身近な生活用具等を用意して、触れたり動かしたりして遊ぶことを通して興味を引き出していく。

1歳の頃前半	【発達のおもな特徴】	【保育の中で引き出したい姿】	【保育のポイント】
<p>① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」「健康」</p>	<p>＜自分でしようとする気持ちを育む＞</p> <p>(食) ・ 手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする意欲を大切に ・ 一人一人の咀嚼や嚥下の状態を把握し、幼児食への移行を図る。</p> <p>(排) ・ おむつ交換の気持ちよさが分かるようにする。 ・ オマルや便器に興味を持たせる。</p> <p>(睡) ・ 一人一人の子どもの姿に応じて適切な午睡をとり、快適に過ごせるようにする。</p> <p>(着) ・ 保育者に介助されながら自分で脱ごうとする。</p> <p>(清) ・ 体や身の回りを清潔にし、心地よく過ごせるようにする。</p>	<p>◇ 興味のあるところに自分から行って触れたり試したり、探索活動を盛んにする</p> <p>◇ 自分の気持ちを安心して表す</p>	<p>☆ 歩き始めや発語など大きく発達する。個人差の大きい時期であることを理解し、一人一人の発達に合わせる</p> <p>☆ 一日の生活が歩き回ることが中心なので、十分に探索できるように安全な環境設定を工夫する</p> <p>☆ 一人一人の表情を読み取り、やさしく話しかけたり発語を促したりすることによって、楽しんで言葉を使えるようにする。</p>
<p>② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」「人間関係」「言葉」「表現」</p>	<p>＜保育者に遊んでもらうことを喜ぶ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して自分の感情を出す。 自分の思いを喃語や指差しなどの身振りで伝えようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 怒る、喜ぶ、嫉妬する、すねるなどの様々な感情がみられるようになってくるので、一人一人の子どもの行動や心の動きを理解し、受け入れたり共感したりして、安心して様々な思いを出せるようにする。 保育者に遊んでもらうのを喜ぶので、楽しい雰囲気をつくり一対一でのやり取りを十分楽しめるようにする。 話し掛けや応答で思いが伝わることの楽しさを味わえるようにする。
<p>③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」「表現」</p>	<p>＜一人歩きができるようになり、自分が行きたいところにいけるようになる＞</p> <ul style="list-style-type: none"> つかまり立ち、伝い歩き、一人歩き等の身体活動を楽しむ。 見る、聞く、触る、握る等して遊び、目、指などの感覚や機能を豊かにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 歩けるようになってくるが、ほうことも十分に楽しめるように、保育室にトンネルや緩やかな斜面などを作り、保育者もともに楽しむ。 遊びのコーナーに使っているついたて等につかまって立ち上がったたり、伝い歩きたりするので、高さや安全性に配慮した環境づくりに心がける。 指先が器用になり、入れたり出したり落としたりするようになるので、穴落としなどの玩具を用意する。 一人でじっくりと取り組めるように、落ち着いて遊べる空間を用意する。
<p>④ 探究心を育む視点 「環境」「言葉」「表現」</p>	<p>＜興味をもったことやものに意欲的にかかわろうとする。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 見るもの聞こえるもの触れるものに興味をもち、探索を楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> 間仕切り等をして、一人でじっくりと落ち着いて遊べるような空間を用意する。高さや安全性に注意をする。 子どもが遊んでいる姿に言葉を添えたりして、次への意欲を引き出せるように心がける。 一方を引っ張ると反対側が上がるなど変化を楽しんだり、試したりできるような玩具等を準備し探索意欲を満たすようにする。

<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <h1 style="margin: 0;">1歳の頃後半</h1> </div>	【発達のおもな特徴】 ○ 意味のある言葉を使うようになる ○ 身近な大人が興味の対象となり始める ○ 歩行が安定し、手指を使った遊びが盛んになる	【保育の中で引き出したい姿】 ◇ 身近な大人言葉が分かり、意味のある言葉を3、4語くらい話す	【保育のポイント】 ☆ 歩き始めや発語など大きく発達する。個人差の大きい時期であることを理解し、一人一人の発達に合わせる ☆ 一日の生活が歩き回ることが中心なので、十分に探索できるように安全な環境設定を工夫する ☆ 一人一人の表情を読み取り、優しく話しかけたり、発語を促したりすることによって、楽しんで言葉を使えるようにする
---	--	--	--

視点	ねらい	援助のポイント
① 基本的生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」	<自分でしようとする気持ちを育む> (食) ・ 様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気の中で食べられるようにする。 (排) ・ オマルや便器での排尿に慣れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ● 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 (食) ・ 手づかみが混じっても自分で食べようとする気持ちを大切に、食べ物を一口量に分けたり小さくつぶしたりして、子どもがスプーンを使って食べられるように配慮する。 ・ 一人一人に合わせて、椅子や机の高さを調整する。 ・ 遊び食べが始まるので、食事に集中できるような環境を整える。 (排) ・ 排尿間隔が一定になりつつあるので一人一人の排尿間隔をつかみ、濡れていなければオマルや便器に座らせる。 ・ 偶然うまく排泄できた時には大いに誉めて一緒に喜ぶ。 ・ 出なかったり、嫌がっている時は長く座らせないようにする。
② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」	<保育者に遊んでもらうことを喜ぶ> ・ 保育者の働きかけを喜び、簡単な言葉を繰り返したりして言葉を使うことを楽しむ。 ・ 身近な保育者や子どもに関心を持ち、かかわろうとする。	・ 「マンマ」「ブーブー」等の言葉に様々な思いが込められていることを理解し、保育者が言葉を添えて応答的にかかわり、伝えたい意欲を育み、聞いてもらいたい気持ちを満足させる。 ・ 耳や目など五感を使って言葉を理解していくことに留意し、ゆっくりはっきりと語りかけるように心がける。 ・ 物の取り合いややり取り等の行動が表れてくるので、友だちの存在に気付かせたり、思いが相手に伝わるように言葉を添えたりして友だちとかかわりたい気持ちを満たすようにする。 ・ 同じ玩具を使いたい気持ちが満足できるように環境を整える。
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」	<一人歩きができるようになり、自分が行きたいところに行けるようになる> ・ 歩行が安定し、坂道や砂利道等いろいろな所を歩くことを楽しむ。 ・ 保育者の真似をして簡単な手遊びをしたり、身近な音楽を聞いたりして体を動かすことを楽しむ。 ・ 腕全体を十分に使ったり、めくる、つまむ等、手先や手首を使う遊びを楽しむ。	・ 園庭や散歩に出て、平らな所だけでなくいろいろな所を歩けるようにしたり、乗用玩具に乗ったり押したりすることで、歩くことを十分に楽しめるようにする。 ・ 10cmくらいの高さの昇り降りや、かがんでくぐったりなどの遊びが十分できるような環境を工夫する。 ・ 保育者がする手遊びやわらべうた遊び等に合わせ体を揺らしたり、動かしたりすることに興味をもたせ楽しめるようにする。 ・ なぐりがきや、積み木を積む、絵本をめくる等、腕全体や指先を使った遊びを通して、腕や手指の動きを促す。
④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」	<興味をもったことやものに意欲的にかかわろうとする。> ・ 身の回りの様々なものを使って保育者と「・・・のつもり」を楽しむ。 ・ 親しみの持てる自然素材や小動物、植物等を見たり触れたりして興味や関心をもつ。 ・ 絵本や身近な道具・玩具などに興味を持ち、保育者と一緒にそれらを使った遊びや表現を楽しむ。 ・ なぐりがきを楽しむ。	・ 少しずつ絵本やままごとなどのコーナーを作っていき、人形、手提げかばん等身の回りのいろいろな道具を用意して、保育者も一緒に遊びに入り子どもの中の「・・・のつもり」を広げ、ごっこ遊びの芽生えを培う。 ・ 犬の実物や絵を指差して「ワンワン」と発声する等、言葉と対象が一致してわかり始めるので、子どもの言葉を受け入れやり取りを楽しめるようにする。 ・ 水、砂などの素材やいろいろな容器を用意して、すくったり移しかえたりこぼしたりする楽しさや、素材の感触を十分味わえるようにする。 ・ 戸外で遊んだり散歩に出たりして、花や虫を見つけたり触ったりすることで感覚機能を高める。 ・ 子どもの驚きや喜びの表情を見逃さずに受け止めて共感し、好奇心や興味を満たす。 ・ 絵本等の一節を口真似したりして繰り返す楽しみ姿があるので、覚えやすい内容のものを選んだり、リズムをつけて読んだり等工夫していく。 ・ 安全な材料やコーナーを用意し、保育者が見守る中で自由に楽しめるような言葉がけや援助をする。

2歳の頃	【発達のおもな特徴】 ○ 友だちの存在を意識し始める ○ 自己主張をする	【保育の中で引き出したい姿】 ◇ 保育者や友だちの模倣を楽しむ ◇ 「自分で」「イヤ」等自己主張をし、何でも自分でやろうとする	【保育のポイント】 ☆ 保育者や友だちの模倣を十分楽しむ中で同じという気持ちや同じ玩具で遊びたい気持ちが満足できるように環境を整える ☆ 子どもの心のコントロールに大きな影響を与えることに留意し、やりたいけれどやれない、子どもの揺れ動く微妙な感情に丁寧に対応する
-------------	---	--	--

視点	ねらい	援助のポイント
① 基本的生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」	<自分でしようとする気持ちを大切に、自分でできたという満足感を味わえるようにする> (食) ・ スプーンやフォークを使って食べられるようになる。 (排) ・ 排尿したことを保育者に知らせようとする。 (睡) ・ 適切に休息の時間をつくり、心身の疲れを癒せるようにする。 (着) ・ 衣服に興味を示し、自分で脱いだり着たりしようとする。 (清) ・ 手や顔の汚れや鼻汁等に自分で気付き、保育者に知らせたり、保育者の手を借りながら自分できれいにしようとする。	● 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ● 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 (食) ・ スプーン等を使って食べようとする気持ちを大切に、こぼしても一人で食べる満足感を味わえるようにする。 ・ 先のとがった物等の扱いには注意し、食事の道具を正しく使えるように知らせていく。 ・ 「手を洗い」「エプロンを付け」「食べる」という流れが分かってくるので、繰り返しを大切に食べることの楽しさや興味を育てる。 ・ 味覚が発達し好き嫌いが出てくるが、そのことにあまりこだわらず、無理をせず気長に見守り、食べてみようとする気持ちをもてるようにしていく。 (排) ・ 一人一人の排尿感覚をつかみタイミングよく声をかけ、一緒に行ったり見守ったりすることで安心して次第に自分から排尿できるようにし、知らせた時には十分に誉める。 (睡) ・ 外遊びが多くなり動きが活発になってくるので、一日の生活を見通して午睡以外にも休息時間を設けていく。 (着) ・ 難しい部分はさりげなく手助けして、自分でできた満足感を味わえるようにする。 (清) ・ 優しく声をかけて気付け、手助けしながらきれいにし、次第に自分でできるように温かく見守る。 ・ 自分で気付けたときには十分に誉め、清潔になることの心地よさを味わえるようにする。
② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」	<信頼関係のある大人に自己主張ができ、何でも自分でやろうとする> ・ 保育者に受け入れられたり認められたりして、安定して過ごす。 ・ 自分の気持ちを親しい大人に伝えようとする。 ・ 身の回りに様々な人がいることに気付き、友だちと触れ合うことを楽しむ。	・ やりたい気持ちと、やりたいのにやれない気持ちの間で揺れ動く姿があるので、気持ちを受け止め十分に満足させ、自立心の芽生えを育む。 ・ 「わんわんきた」等二語文を話せるようになってくるので、ゆったりとした雰囲気を作り話したい気持ちを受け止めじっくり聞く。 ・ 繰り返しのある絵本等を読んだり、はっきりした言葉で話しかけたり、言葉を真似たりしてやり取りを楽しめるようにする。 ・ 少しずつ友だちが分かり始め、保育者や友だちの真似を楽しむようになってくるので、「・・・のつもり」「・・・のふり」を十分に満足させる。「同じね」「いっしょね」等の言葉をかけながら、友だち、なかまという気持ちの芽生えを育む。 ・ 友だちと同じ所で遊びたい、同じ玩具が使いたい等の気持ちを受けとめ、満足できる玩具の数を揃えたり、保育者が仲立ちとなったりして一緒に遊べるようにし、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにする。
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」	<歩く、走る、跳ぶ等、自分の思うように体を動かせるようになる> ・ 走る、跳ぶ、登る、降りる等全身を使った遊びを楽しむ。 ・ 保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだり、曲に合わせて体を動かす遊びを楽しむ。 ・ 保育者と一緒に手指を使う遊びを楽しむ。	・ 保育者と一緒に走る、跳ぶ等全身を使う遊びを取り入れ、子どもの動きに合わせて遊ぶことで意欲を引き出していく。 ・ 行動範囲が広がってくるので、安全面に留意する。 ・ 保育者の真似を楽しむようになってくるので、親しみがもてる歌をうたったり踊ったり、簡単な動作と一緒に楽しめるようにする。 ・ 遊びの中で楽しく手指を使えるように大きさ、やわらかさ、数、種類等に配慮して遊具を整える。
④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」	<身の回りの関心のあることを模倣して遊ぶ> ・ 保育者とともに自分なりのイメージで「みたて」「・・・のつもり」の遊びを楽しむ。 ・ 感じたこと、思ったことを言葉を使って表現しようとする。 ・ 絵本や紙芝居の絵や短い繰り返しを楽しむ。	・ 大人がやっていることに興味を示し真似をするようになってくるので、身近な遊びの空間として「ままごとコーナー」等を作ったりして、保育者との対一のやり取りを繰り返し楽しめるようにする。 ・ 水・砂・粘土・小さい積み木・ブロック等を用意し、みたて遊びやつもり遊びを十分に楽しめるようにする。 ・ 丸がかかるようになり、かいた丸に興味付けをするようになってくるので、子どもの言葉に耳を傾け表現しようとする気持ちを受け止める。 ・ 話したい気持ちが膨らんでくるので子どもの伝えようとすることを先取りしないように待ち、相槌を打ったり子どもの気持ちを察したりして、自分から表現しようとする気持ちを育てる。 ・ 伝えたいような新鮮な驚きや喜び、感動のある体験の場を保育者も一緒に楽しみながら作り、遊びをより豊かなものにしていく。 ・ 繰り返しのある短いお話を喜んで聞くので、絵本や紙芝居等子どもの状況に応じて選び、時にはみんなで見る機会も作り共有や共感を楽しめるようにする。

3歳の頃	【発達のおもな特徴】 ○ 大人の手を借りず自分でしようとする。 ○ 友だちと一緒にいることの心地よさを感じる。	【保育の中で引き出したい姿】 ◇ 身の回りのことを自分なりにしようとする。 ◇ 言葉で伝えることを楽しむ。	【保育のポイント!】 ☆ 自我がはっきりしてくるもののうまく表現できないところもあるので、一人一人に応じて十分に受け止める ☆ 一対一でゆったりと話を聞くようにする
-------------	--	--	---

視点	ねらい	援助のポイント
① 基本的生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」	<身の回りのことを、自分なりにしようとする。> (食) ・ 楽しんで食事がとれるようにする。 (排) ・ 次第に尿意を告げたり、失敗もあるが促されて自分で排尿しようとする。 (清) ・ 自分の持ち物、場所等が分かり、用意したり元に戻したりしようとする。	○ 一人一人の子どもの生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。 ○ 個人差があることを十分に理解し、一人一人の子どもに応じた援助をする。 (食) ・ ほとんど自分で食べられるようになってくるのでこぼしたり手で食べたりしてもゆったりと見守り、自分でできた満足感をもてるようにする。 (排) ・ 自分から知らせたことを認め、自分でしようとする気持ちを大切にしていける。 ・ ぎりぎりまで我慢して失敗する事もみられるので、不安にならないように言葉をかけたり、手早く着替えの手助けをしたりする。 (清) ・ 着替えかご等を子どもが出し入れしやすい場所に設定するなど環境を整える。
② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」	<身近な人とかかわったり、友だちと遊ぶことを楽しむ> <ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な言葉がある程度わかり、自分の気持ちを言葉で表し、やり取りを楽しむ。 友だちを意識しながら遊ぼうとする。 人とかかわりの中で、きまりのあることに気付く。 保育者の手伝いをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが話したい意味を汲み取りながらゆったりと聞き、話したい気持ちを十分に満たす。 「入れて」「貸して」等人とかかわりの中で使う言葉を保育者が使うことで知らせていく。 次第に友だちを求め、ままごとなど簡単なごっこ遊びをする中で、玩具の取り合い等のトラブルもあるが、少しずつ友だちに譲ったり我慢したりするようになってくるので、一人一人の気持ちを十分受け止めたり、伝えたりしながら相手の思いに気付かせていく。 友だちと一緒に遊んでいるつもりでも平行遊びが多いが、友だちの模倣をすることは人とかかわる力の大切な基礎固めになるので、一緒に遊びたい気持ちの芽生えを大切に。 友だちと心地よく遊ぶために、貸し借りや順番などのきまり、自分のものと他人のものとの区別に気付かせながら、待ったり譲ったり、我慢したりなど、気持ちの調整をしていけるようにする。 大人と一緒にのこをしたい気持ちを受け止め、意欲をもたせたり、人の役に立つ喜びを感じられる言葉がけを工夫したりする。 自分でできることでも「やって」と甘えることもあるが、甘える心地よさを感じさせ満足感をもてるようにする。
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」	<自分の思うように体を動かせるようになる> <ul style="list-style-type: none"> 戸外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。 感じたことや思ったことを歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現することを楽しむ。 ちぎる、のばす、つまむなど手、指を使う遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定玩具に興味を持ち始めるので、安全に配慮しながら見守り、危険な場合はその都度知らせ、子どもが自分で気付けるようにしていく。 室内に運動玩具や用具を設定し、十分に体を動かして遊べるようにする。 子どもの好きな歌やリズム感のある曲を選び、保育者も一緒に歌ったり体を動かしたりして表現する事を楽しめるようにする。 紙や粘土等いろいろな素材を工夫し、つまむ、ちぎる、のばす等、手指を使つての遊びを取り入れ、指先の機能の発達を促す。
④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」	<身近な環境に興味を持ち、親しむ> <ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に人や動物などの模倣などをして簡単なごっこ遊びを楽しむ。 身近な動植物や自然事象に触れ、親しみをもつ。 感じたことや思ったことを話したり、歌ったり、体を動かしたりして遊びに取り入れる。 身の回りの様々な事象に対し、「なぜ」「どうして」など不思議に思ったことを盛んに質問をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちに寄り添いながら、保育者も遊びの一員になり、なりきる楽しさを共感していく。 ごっこ遊びが楽しめるような玩具や場所など環境を工夫する。 親しみのもてる小動物や植物を保育室に置き、子どもが見たり触れたりして好奇心をもてるような環境を設定する。また興味や関心を広げられるような言葉がけやかかわりを工夫する。 子どもが日頃親しんでいる音楽や用具等を用意し、保育者が共に表現しながら楽しさを共感したりイメージを引き出す言葉がけをしたりしながら、興味や表現の方法を広げていく。 子どもの発見や驚き・疑問等に共感し、一緒に考えたり試したりして根気よく丁寧にかかわり、子どもの知りたい気持ちを満足させる。

3歳児	【発達のおもな特徴】	【保育の中で引き出したい姿】	【保育のポイント】
視点	ねらい	援助のポイント	
① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」	<p><身の回りのことを自分でしようとする></p> <p>(食) ・ 友だちと一緒に食べる楽しさを味わう。 ・ 園で収穫した野菜を見たりにおいを嗅いだりして食への関心をもたせる。</p> <p>・ 食事の準備や片付けに興味をもつ。</p> <p>(排) ・ 尿意を感じたら言葉で知らせ、失敗もあるが一人で排尿しようとする。</p> <p>(着) ・ 自分で着脱をしようとする。</p> <p>(清) ・ 保育者の姿を見ながら、自分の使った物を元の場所に戻そうとする。 ・ 保育者に促されて、自分で清潔にしようとする。</p>	<p>○ 食事、排泄、衣類の着脱などが自立してくるので子どもが自らしようとする気持ちを大切に、自分でできた満足感を味わえるようにする。</p> <p>(食) ・ 保育者とかかわりや友だちと一緒に食べる中で、苦手な食べ物や味覚に慣れて少しずつ食べられるように、友だちと楽しんで食事ができる雰囲気作りをする。 ・ 「いただきます」「ごちそうさま」などのあいさつは、繰り返しの身についていくようにする。</p> <p>・ 保育者の真似をして配膳や片付けをしようとする意欲を認め、やりたい気持ちを満足させる。</p> <p>(排) ・ 自分で行けるようになってくるが後始末は難しいので、最後には拭いてあげて清潔感が感じられるようにする。 ・ 失敗した時は不安にならないような配慮を心がける。</p> <p>(着) ・ 自分でしていることを十分に認め、必要に応じて手助けをしていく。 ・ 衣服の前後や表裏、靴の左右を知らせ自分で気付いていけるようにする。</p> <p>(清) ・ 遊んだ後は保育者が促しながら片付け、きれいになった心地よさが感じられるようにしていく。 ・ 手洗いやうがい等をして、清潔にしたり病気の予防ができるようにする。</p>	
② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」	<p><気に入った友だちが見つかり、そばで遊ぼうとする></p> <p>・ 自分の思ったことや感じたことを言葉にし、保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しむ。</p> <p>・ 保育者や気の合う友だちと一緒にいろいろな遊びに取り組もうとする。</p>	<p>・ 自分の思いを出すことを大切に、一人一人が安心して話せるような雰囲気をつくり、それぞれの思いを十分に受け止めて安定できるようにする。</p> <p>・ 保育者や子ども同士の中で聞くこと、話すことが次第に身につくようにし、やり取りを楽しめるようにする。</p> <p>・ 「入れて」「貸して」「ありがとう」等の言葉を交わす心地よさを味わえるようにし、自ら使えるように促す。</p> <p>・ 友だちとかかわりを求めるようになってくるので保育者がともに遊ぶ中で、友だちと一緒に遊ぶ楽しさや面白さを味わえるようにする。</p> <p>・ 安定感をもって友だちと遊べるように一人一人を受け止め様子を見守りながら、友だちと一緒に生活していることを意識できるようにかかわる。</p> <p>・ 自分の思いが中心でトラブルになることがあるので、思いが通らず悔しい気持ちを十分に受け止めて気持ちを安定させたり、仲立ちとなって相手に思いを伝えたりする。</p>	
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」	<p><全身のバランスがよくなり、体の動きが巧みになる></p> <p>・ 戸外で走ったり、登ったり、跳んだりする等、体を動かして遊ぶことを楽しむ。</p> <p>・ 音楽に親しみ聞いたり、歌いながら体を動かしたりすることを楽しむ。</p> <p>・ 物や場所の安全な使い方がわかり、気を付けて遊ぼうとする。</p>	<p>・ 固定遊具で体を十分使うことを楽しみながら、思うように体を動かせる満足感を味わえるようにする。</p> <p>・ 友だちや保育者と一緒に、追いかけたり追いかけられる遊びを十分楽しめるようにする。</p> <p>・ 体を動かすことが楽しくなり、何でもやってみようという意欲をもつようになってくるので、子どもができることをたくさんすることにより、力を調整したり蓄えたりできるようにしていく。</p> <p>・ 子どもの好きな歌やリズム感のある曲を選び、保育者や友だちと表現することを楽しめるようにする。友だちと一緒に簡単な触れ合い遊びやわらべうた遊びを楽しめるようにする。</p> <p>・ 危険への判断が難しいので、状況に応じて声をかけ気付けさせていく。</p> <p>・ 自分で気付いて行動できた時には、次の行動につなげていけるように十分に認めていく。</p>	
④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」	<p><身近な環境に関心を持ち、自分からかかわろうとする></p> <p>・ 経験したことを自分なりに再現して遊ぶ。</p> <p>・ 身近な動植物や自然事象に親しみ、遊ぶことを十分に楽しむ。</p> <p>・ 感じたことや思ったことをかいたり、つくったりして自由に表現しようとする。</p> <p>・ 絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりしてその内容や面白さを楽しむ。</p>	<p>・ エプロンなど身につけるものの用意、場の設定など、一人一人のイメージが表現できるような物や空間の提示や、十分になりきれぬ言葉のやり取りをしながら、保育者も共に楽しむ。</p> <p>・ 散歩に出かけたりして自然に直接触れ、においをかいだり触ったり、美しさを感じたり、またクラスで生き物を飼育したりして興味が膨らむようにする。</p> <p>・ 水、砂、泥などで思う存分楽しみ、これらの素材の感触に気付いていくようにする。</p> <p>・ 曲線や円、波形等をかいたり、はさみやのり等の道具を使う中で、偶然できた形を見立てるなど形に興味をもったり、つくったりすることを楽しめるようにする。</p> <p>・ 道具の正しい扱い方を知らせ、危険のないよう見届ける。</p> <p>・ 場面や繰り返しの面白さが感じられるような絵本や紙芝居を繰り返し読み聞かせる。</p>	

4歳児

【発達のおもな特徴】

- 自我がしっかりし、自他の区別がはっきりしてくる
- 友だちの思いが分かり始める
- 全身のバランス能力が発達し様々な動きができるようになる

【保育の中で引き出したい姿】

- ◇ 友だちとかかわりをもちながら自分の思いを出して遊ぶ
- ◇ 相手の思いに気付く
- ◇ 体をのびのびと動かして遊ぶ

【保育のポイント】

- ☆ 互いに思いを出し合いぶつかり合う中で、自分とは違った思いがあることに気付かせていく
- ☆ 葛藤する気持ちを受け止めたり共感したりして、乗り越えていけるようにする
- ☆ 体の軽いこの時期に戸外で遊ぶことを通して、体を動かして遊ぶことを楽しめるようにする

視点

ねらい

援助のポイント

① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」

- <1日の生活の流れが分かり、必要なことを自分でしようとする>
- (食) ・ 友だちとともに楽しんで食べようとする。
 - ・ 野菜の栽培や収穫などの体験を通して、身近な食品に興味や関心をもたせる。
 - ・ 歯磨きをする。
 - (排) ・ 排泄の後始末をしようとする。
 - (着) ・ 気候や活動に合わせて衣服を調節しようとする。
 - (清) ・ 自分の体に関心を持ち、清潔にしようとする。
- ・ 遊んだ後の玩具や用具等を保育者と一緒に片付けたりするようになる。

- 自分で考えて動けるように周りの様子に気付かせたりして意識や意欲を育み、生活の仕方が身につくようにする。
- (食) ・ 箸の正しい使い方を知らせたり援助したり、また食事のマナーや態度などを知らせていく。
- ・ 野菜の栽培や収穫を通して、身近な食品に関心をもつ機会をつくる。
- ・ 磨き方を知らせたり取り扱いに注意したりしながら、歯磨きの習慣がつくようにしていく。
- (排) ・ 子どもが自分でできないところを援助しながら、次第に自分できれいに後始末ができるようにしていく。
- (着) ・ 暑さや寒さに合わせて衣服の調節が自分でできるように声をかけて知らせたり、衣服をたためるようにしていく。
- (清) ・ 汗を拭く、手を洗うなど衛生的な生活を送れるようにする。
- ・ 日常生活の様々な場面や機会を通して、自分の体に興味や関心をもたせる。
- ・ 自分の体の異常に気付き、自分から知らせることができるようにする。
- ・ 保育者と一緒に片付けや整頓をしながら、きれいになったことの心地よさを共感していくようにする。

② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」

- <友だちと一緒に活動する楽しさを味わう>
- ・ 思ったことや感じたことを、自分なりの言葉や行動で友だちや保育者に伝え、相手の思いにも気付く。
 - ・ 異年齢児と触れ合い、かかわる楽しさを味わう中で思いやりや憧れの気持ちをもつ。
 - ・ 日常生活に必要なあいさつをしようとする。
 - ・ 当番活動に喜んで参加する。

- ・ 互いに思いを出し合い、保育者と一緒に考えたり受け入れたりして歩み寄ろうとし、心を通わせていく心地よさを味わえるようにする。
- ・ 異年齢児と触れ合う中で、年長児の真似をしたい気持ちや年少児への思いやりがもてるようなかかわりを心がける。
- ・ あいさつや返事など、生活や遊びに必要な言葉が使えるように保育者がモデルとなっていく。
- ・ 当番活動に興味をもち、自分からしようとする気持ちを育む。

③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」

- <喜んで運動遊びをしたり、友だちと一緒に遊ぶ>
- ・ 保育者や友だちと一緒に戸外で体を十分に動かすことを楽しむ。
 - ・ 簡単なルールのある遊びの楽しさを味わう。
 - ・ 友だちの姿を見て、自分もやってみようという気持ちをもって楽しんで遊ぶ。
 - ・ 友だちと体を触れ合わせて遊ぶことを楽しむ。
 - ・ イメージに合わせて体で表現することを楽しむ。
 - ・ 遊具や用具の正しい使い方を知り、安全に気を付けて遊ぶ。

- ・ 片足跳びやスキップ等、広い場でのびのびと思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・ 集団遊びを取り入れ、みんなで遊ぶ楽しさが味わえるようにする。
- ・ いろいろな動きを組み合わせることで遊ぶことを楽しむようになってくるので、平均台や巧技台など様々な運動遊具、用具を用意し、楽しめる環境を作っていく。
- ・ 新しい遊びにも自分から挑戦したり、友だちの姿を見て意欲を湧かせるなど“やってみよう”という気持ちが旺盛になってくるので、一人一人に応じて援助し意欲を育んでいく。
- ・ 手遊びやわらべうた、リズム遊びを取り入れ、友だちと触れ合って遊ぶ中で、気持ちを通わせて動く経験ができるようにする。
- ・ イメージしやすいものを取り入れ、体で様々な表現をする楽しさを味わえるようにする。
- ・ 保育者が見守る中で自分で判断しようとする姿を認めたり、安全に気付くように促していく。

④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」

- <身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり考えたりする>
- ・ 身近な生活経験をごっこに取り入れ、友だちや保育者と共にイメージを膨らませて遊ぶ。
 - ・ 身近な動植物の世話を楽しんで行い、関心や愛情をもつ。
 - ・ 身の回りの事象や数、量、形等に関心をもつ。
 - ・ 感じたことや思ったこと、想像したこと等を様々な方法で自由に表現する楽しさを味わう。
 - ・ いろいろな素材に慣れて、自分なりの使い方を楽しむ。
 - ・ 絵本、童話、視聴覚教材等を見たり聞いたりしてイメージを広げる。

- ・ 役割を意識して友だちと共にごっこ遊びを楽しむようになってくるので、イメージを共有しやすい物や場の設定を子どもと共にし、イメージをつなげられるような援助をする。
- ・ 鉢や飼育箱等を子どもが毎日観察しやすい場所に置き、保育者の思いを寄せる姿を見たり言葉をかけたりして、子どもが自らかかわろうとする気持ちを育てる。その中で、生き物の育ちへの興味関心や、いとおむ気持ちをもたせるようにしていく。
- ・ 生活の様々な場面の中で、自然や社会の事象に対する好奇心や探索心を満たすようにする。
- ・ 具体的に体験することで数や量等への感覚を育み、日常的な言葉がけの中で興味を引き出していく。
- ・ 空き箱等廃材や自然物等の様々な素材や用具をいつでも使える場所に用意し、子どものイメージに合わせて準備する。
- ・ 砂を水で固めて山を作ったりトンネルを掘ったり等、できたり崩れたりすることを保育者とともに楽しみ繰り返す中で素材の性質を理解したり、工夫したりすることを大切にする。
- ・ 日常会話や絵本、童話、歌等を通して、様々な言葉の決まりや面白さ等に気付き、言葉の感覚が豊かになるようにする。

5歳児	【発達のおもな特徴】	【保育の中で引き出したい姿】	【保育のポイント】
視点	ねらい	援助のポイント	
① 基本的な生活習慣を身につける視点 「生命の保持」 「健康」	<p><生活の仕方を身につけ自分の身の回りのことを進んでするとともに、見通しをもって自分たちで進めていこうとする></p> <p>(食) ・ 食べ物と体の関係に関心を持ち、進んで食べようとする。</p> <p>(着) ・ 気候や活動に合わせて衣服を調節する。</p> <p>(清) ・ 健康な生活に必要な基本的習慣や態度を身につける</p>	<p>○ 一日の流れの見通しをもち自分たちで進めていこうとする姿を十分認め、必要に応じて言葉をかけたり気付かせたりしていく。</p> <p>○ 安全に過ごすための習慣を身につけられるようにしていく。</p> <p>(食) ・ 友だちや保育者と一緒に野菜の栽培や収穫、クッキング等の体験をし、身近な食品への興味や関心を高め感謝の気持ちをもてるようにする。</p> <p>・ 食べ物や体の中でどんな役割をしているか知らせ、興味をもたせる。</p> <p>(着) ・ 暑さ寒さの感覚に合わせて自分で衣服の調節ができるようにする。</p> <p>(清) ・ 清潔が病気の予防につながることに気付かせ、自分で体や衣服、持ち物などを清潔にしておけるようにする。</p>	
② 人とかかわる力を育む視点 「情緒の安定」 「人間関係」 「言葉」 「表現」	<p><友だちと協同して遊びを創りだし、ともにやりとげる喜びを味わい自信をもって行動する></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを伝えるとともに友だちの思いを受け止め、友だちと気持ちを合わせて遊ぼうとする。 友だちと共通の目的を見出し、協力したり協調する態度を身につける。 異年齢や様々な人と進んでかかわり触れ合いの中で、コミュニケーションをとることの楽しさを味わい信頼感や愛情をもつ。 人とかかわる中でできまりの大切さに気付く守ろうとする。 当番活動を進んでしようとし、人の役に立つ喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと話し合いをする中で、思いや考えを伝える力や相手の話を聞く力が身につくようにかかわる。 自分や友だちの良さに気づき、一人一人の良さを生かし認め合いながら生活を進めていけるようにする。 共通の目的に向かって友だちと協同していこうとするようになってくるので自ら行動する力を育て、友だちと力を合わせ試行錯誤し、活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わえるようにする。 異年齢や小学生、生活に関係の深い人たちとの出会いの場をもち、親しみをもってかかわれるようにするとともに、かかわりの中で、やさしさや思いやりの気持ちを育む。 思いを主張し折り合いをつける体験の中で自分の気持ちを調整する力を育て、より楽しく遊べるように友だちと必要なルールを作ったり守ったりできるようにする。また良いこと悪いことに自分で気付く、考えて行動できるようにする。 給食の準備や片付け、飼育物の世話等を進んでする中で、人の役に立つ誇らしさや充実感に共感したり成長を認めていく。 	
③ 体を動かすことを楽しむ視点 「健康」 「表現」	<p><全身運動が滑らかになり、様々な運動に意欲的に挑戦する></p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に体を十分に動かして集団遊びやルールのある遊び、複雑な運動遊び等を楽しむ。 自分なりの目標をもって遊びに取り組み、やり遂げようとする。 危険に気づき、安全な行動が取れるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考えた作戦やルールに沿って遊ぶ中で、友だちと気持ちを合わせ自分の動きを調整して遊ぶ経験が十分できるようにする。 子どもの発想を大切にしながら、みんなで楽しめるようにいろいろな遊びのやり方やルールを一緒に作っていく。 繰り返し挑戦しながら目標に向かってやり遂げようとする気持ちを大切に、保育者や友だちと教え合ったり励まし合ったりして、できた喜びをともに味わい自信につなげていく。 行動に見通しがもてるようになってくるので、子どもと一緒に考えながらその場に応じた行動がとれるようにしていく。 	
④ 探究心を育む視点 「環境」 「言葉」 「表現」	<p><意欲や好奇心、探究心をもって環境にかかわり、発見したり、考えたりしたこと等を生活に取り入れていこうとする。></p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちと考えたり工夫したりしながら、満足するまで遊びを楽しもうとする。 自然現象の性質や変化、大きさ、美しさ、不思議さなどを感じたり、関心をもったりする。 身近な動植物に親しみをもって育てたり、大切にしたりして生命の尊さに気付く。 身近にある文字や数、量等に関心を深め、それらを使う楽しさを味わう。 感じたことや思ったこと、想像したこと等を友だちとともに表現することを楽しむ。 絵本、童話、視聴覚教材等を見たり聞いたりして、様々なイメージを広げ想像することの楽しさを味わう。 身近な施設や公共機関等に興味や関心を持ち、人々が様々な営みをしていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとイメージを共有し自分たちで遊びを進めていけるようになってくるので、友だちの考えに触れる中でアイデアや発想を引き出し、新しい考えを生み出す喜びを味わえるようにし、自ら考えようとする気持ちを育てる。 子どもの姿や心の動きに目を配り、遊びが広がり深まるように新たな物の提示、場の設定など環境の再構成に努め、アイデアの提案、考えの整理等、状況に応じて援助をしながら、やり遂げられるように配慮する。 昨日から今日、今日から明日へと遊びが継続していくような人、物、時間、空間など環境の工夫をする。 直接的な体験を通して自然や社会の事象に対する好奇心や探索心を満たせるように、調べたり試したりできるような環境を工夫する。 環境に働きかけて感じた喜びや感動、発見に共感する保育者や友だちがいることがさらなる探究心を育むことにつながるので、一人一人の感動を見逃さず、寄り添うかかわりを大切にする。 飼育栽培を通して、動植物がどのように生きているかや育つかに興味をもち、生命がもつ不思議さや尊さに気付かせる。また、自分たちの生活とのかかわりに目を向け、感謝やいたわりの気持ちを育てていく。 遊びの中で文字を書いたり、数を数えたりなどの経験ができる場を見逃さず、楽しみながら興味、関心を広げていく。 表現しようとするもののイメージが豊かに湧くような雰囲気をつくり、子どもが様々な材料や用具を適切に使えるようにし、表現する喜びを味わえるように配慮する。 絵本や童話等の内容を自らの経験と結びつけたり、想像をめぐらせて感性が豊かになるので、心に触れたり、言葉のリズムを楽しめる内容の物を選び、語彙や感性が豊かになるようにする。 身近にいる大人の仕事を見て、自分の生活と大切なかかわりのある事に気付くように配慮する。 	